

男女共同参画に  
関する  
市民アンケート調査  
報告書

令和8年3月

山陽小野田市

# 目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	
2	調査項目	
3	調査の方法及び回収結果	
4	調査結果の見方	
II	回答者の属性	3
III	調査結果	
1	男女の地位の平等について	
問1	各分野における男女の地位の平等感について	7
問2	あらゆる分野で男女が平等になるために重要なものについて	18
2	男女の生き方について	
問3	「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について	19
問4	問3に賛成の理由について	20
問5	問3に反対の理由について	21
3	男女の生き方について	
問6	意思決定の場に女性の参画が少ない理由について	22
問7	「育児や家事、介護などが職業生活における女性の活躍を妨げる一因である」という考え方について	23
問8	問7に賛成の理由について	24
問9	今後どのような分野で女性の参画が進むべきかについて	25
4	女性と仕事について	
問10	女性が職業をもつことについて	26
問11	(現在就労していない女性に向けて)今後の働き方について	27

問12 (過去に就労経験があり現在就労していない女性に向けて) 離職時の今後の再就労の希望について……………	28
--	----

## 5 仕事と家庭・地域活動の両立について

問13 「仕事・家庭生活」と「地域活動」とのバランスについて……	29
問14 男性が女性とともに家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なことについて……………	30

## 6 防災・災害復興対策について

問15 防災・災害復興対策に必要なことについて……………	32
------------------------------	----

## 7 性に関することについて

問16 自分の性のあり方(性自認・性的指向)について……………	33
問17 女性に対する暴力の根絶のために必要な対策について……	34
問18 女性の悩み事の相談窓口について……………	35
問19 女性の悩み事の相談窓口の周知方法について……………	36

## 8 市への要望について

問20 男女共同参画社会の形成のために必要な市の取組について……	37
問21 自由意見……………	38

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

男女共同参画社会の実現を目指し、施策の一層の充実を図るため、市民の意識と現況を把握し、「男女共同参画プラン」推進の基礎データとし、施策推進の参考資料とするものです。

## 2 調査項目

1. 男女の地位の平等について
2. 男女の生き方について
3. 女性の活躍について
4. 女性と仕事について
5. 仕事と家庭・地域活動の両立について
6. 防災・災害復興対策について
7. 性に関することについて
8. 市への要望について

## 3 調査の方法及び回収結果

### (ア) 調査対象者

市内にお住まいの18歳以上の中から無作為に抽出1,000人

### (イ) 調査方法

郵送により調査票と回答表を配布

回答方法は「郵送回答」とインターネット上のフォームに入力する

「web回答」の2種類

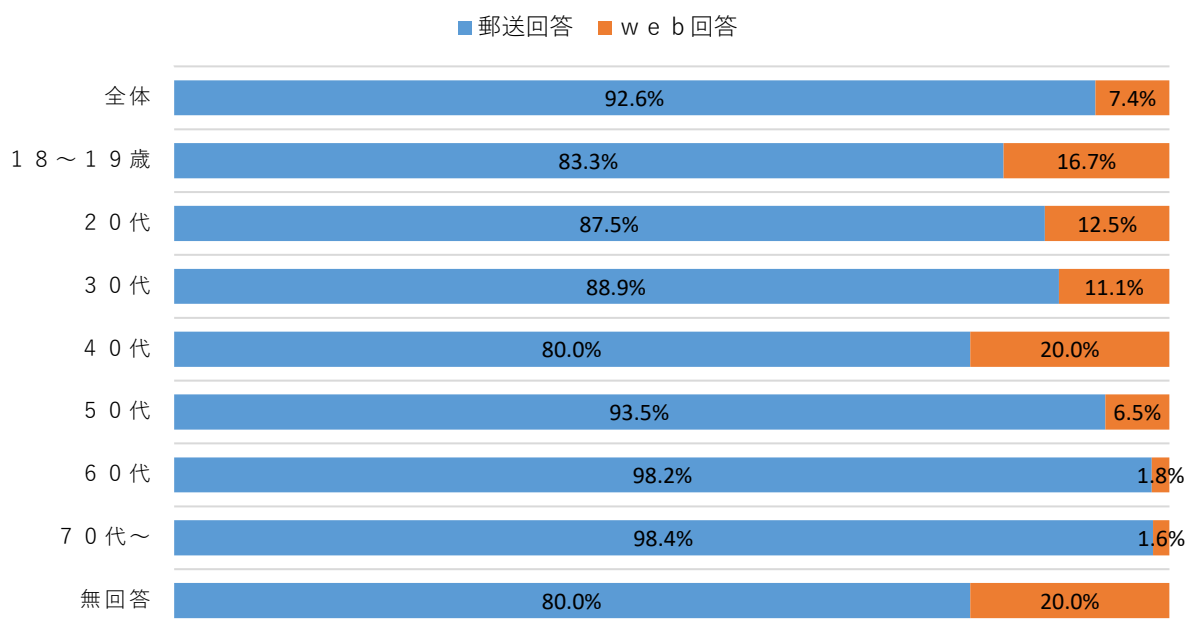
### (ウ) 調査機関

令和7年12月1日～令和8年1月9日

### (エ) 回収率

22.9% (1,000人中229人)

	郵送回答		Web 回答		計	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
18～19 歳	5	83.3	1	16.7	6	2.6
20代	7	87.5	1	12.5	8	3.5
30代	24	88.9	3	11.1	27	11.8
40代	28	80.0	7	20.0	35	15.3
50代	29	93.5	2	6.5	31	13.5
60代	55	98.2	1	1.8	56	24.5
70代～	60	98.4	1	1.6	61	26.6
無回答	4	80.0	1	20.0	5	2.2
計	212	92.6	17	7.4	229	100.0



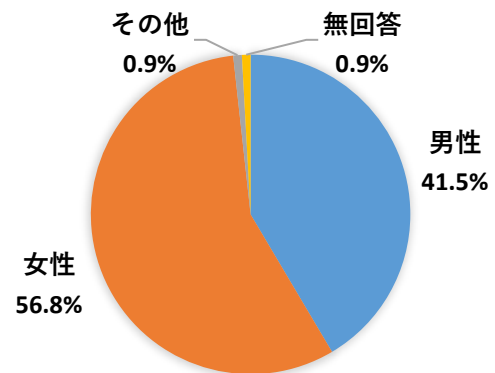
#### 4 調査結果の見方

- (1) 本文及び図中に示した調査結果の百分比(%)の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100%とならない場合がある。
- (2) 前回調査(R3)から性別の選択肢に「その他」を用意したが、回答者が2人と少なく、性別による集計や分析の際にはその回答について掲載を行っていない。

## Ⅱ 回答者の属性

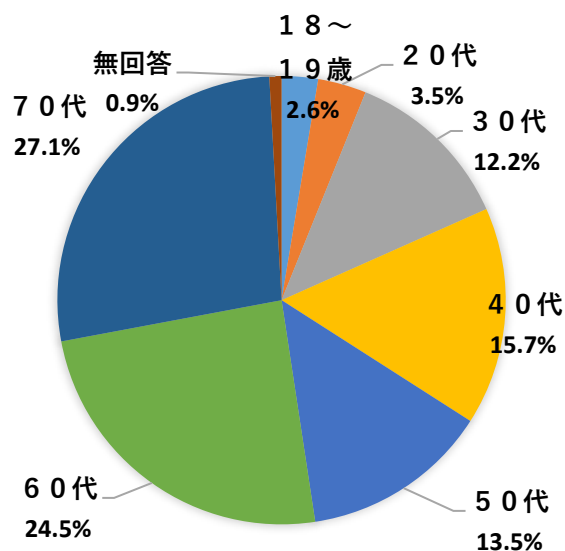
F1 性別

男性	95	41.5%
女性	130	56.8%
その他	2	0.9%
無回答	2	0.9%
計	229	100.1%



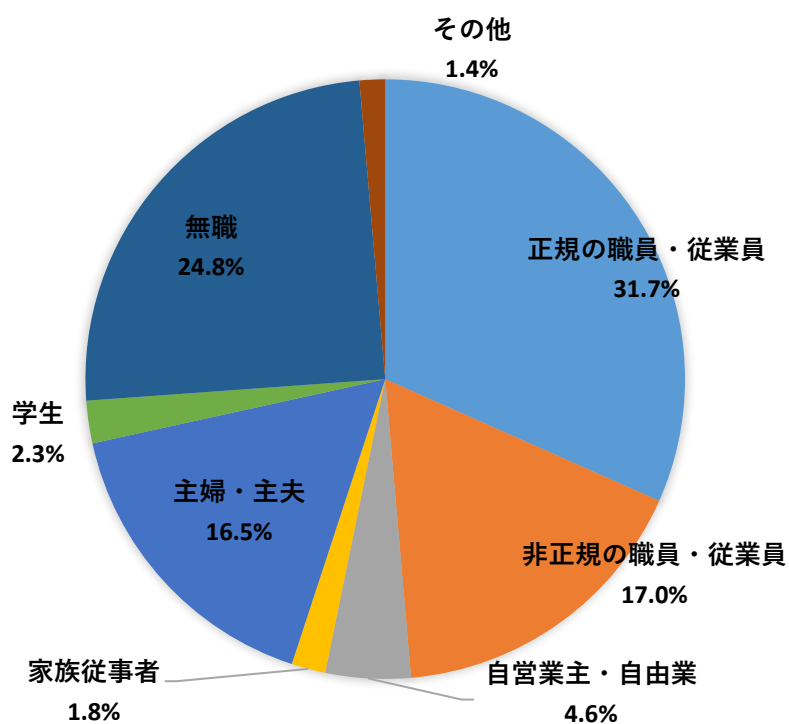
F2 年齢

	男性		女性		その他		全体	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
18~19歳	4	4.2	2	1.5	0	0.0	6	2.6
20代	3	3.2	5	3.8	0	0.0	8	3.5
30代	10	10.5	18	13.6	0	0.0	28	12.2
40代	14	14.7	21	15.9	1	50.0	36	15.7
50代	8	8.4	23	17.4	0	0.0	31	13.5
60代	24	25.2	32	24.2	0	0.0	56	24.5
70代	32	33.7	29	22.0	1	50.0	62	27.1
無回答	0	0.0	2	1.5	0	0.0	2	0.9
計	95	99.9	132	99.9	2	100.0	229	100.0



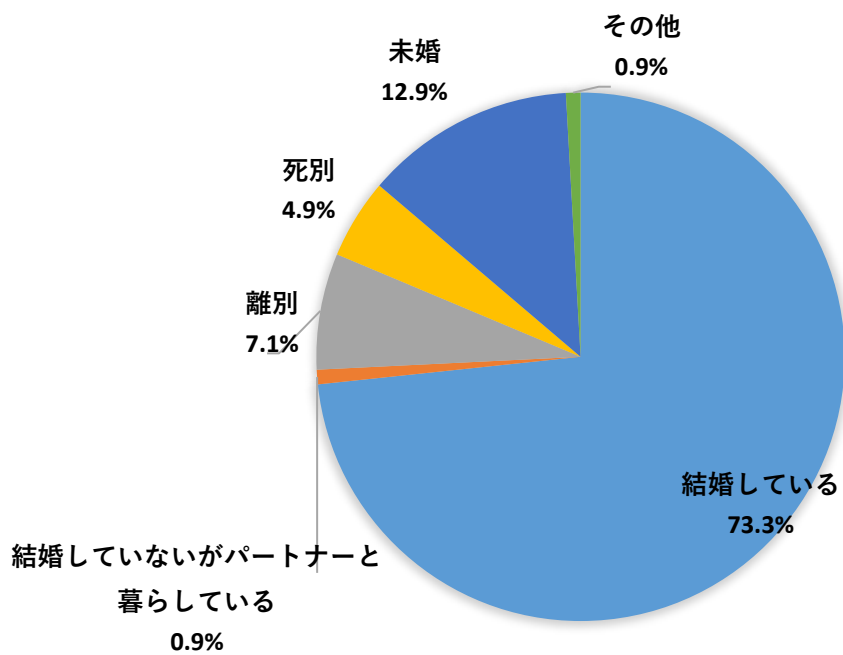
### F3 就業形態

	男性		女性		その他		全体	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
正規の職員・従業員	34	36.2	34	27.9	1	50.0	69	31.7
非正規の職員・従業員	11	11.7	26	21.3	0	0.0	37	17.0
自営業主・自由業	7	7.4	3	2.5	0	0.0	10	4.6
家族従事者	1	1.1	3	2.5	0	0.0	4	1.8
主婦・主夫	2	2.1	34	27.9	0	0.0	36	16.5
学生	2	2.1	3	2.5	0	0.0	5	2.3
無職	35	37.2	17	14.0	1	50.0	54	24.8
その他	2	2.1	1	0.8	0	0.0	3	1.4
計	94	99.9	122	99.4	2	100.0	218	100.1



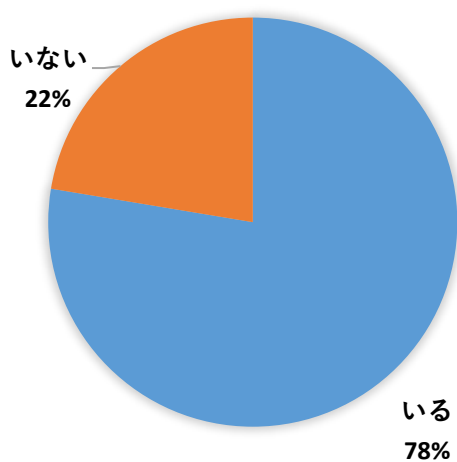
#### F4 未婚・既婚

	男性		女性		その他		全体	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
結婚している	70	74.5	93	72.1	2	100.0	165	73.3
結婚していないがパートナーと暮らしている	1	1.1	1	0.8	0	0.0	2	0.9
離別	3	3.2	13	10.1	0	0.0	16	7.1
死別	3	3.2	8	6.2	0	0.0	11	4.9
未婚	16	17.0	13	10.1	0	0.0	29	12.9
その他	1	1.1	1	0.8	0	0.0	2	0.9
計	94	100.1	129	100.1	2	100.0	225	100.0



## F5 子どもの有無

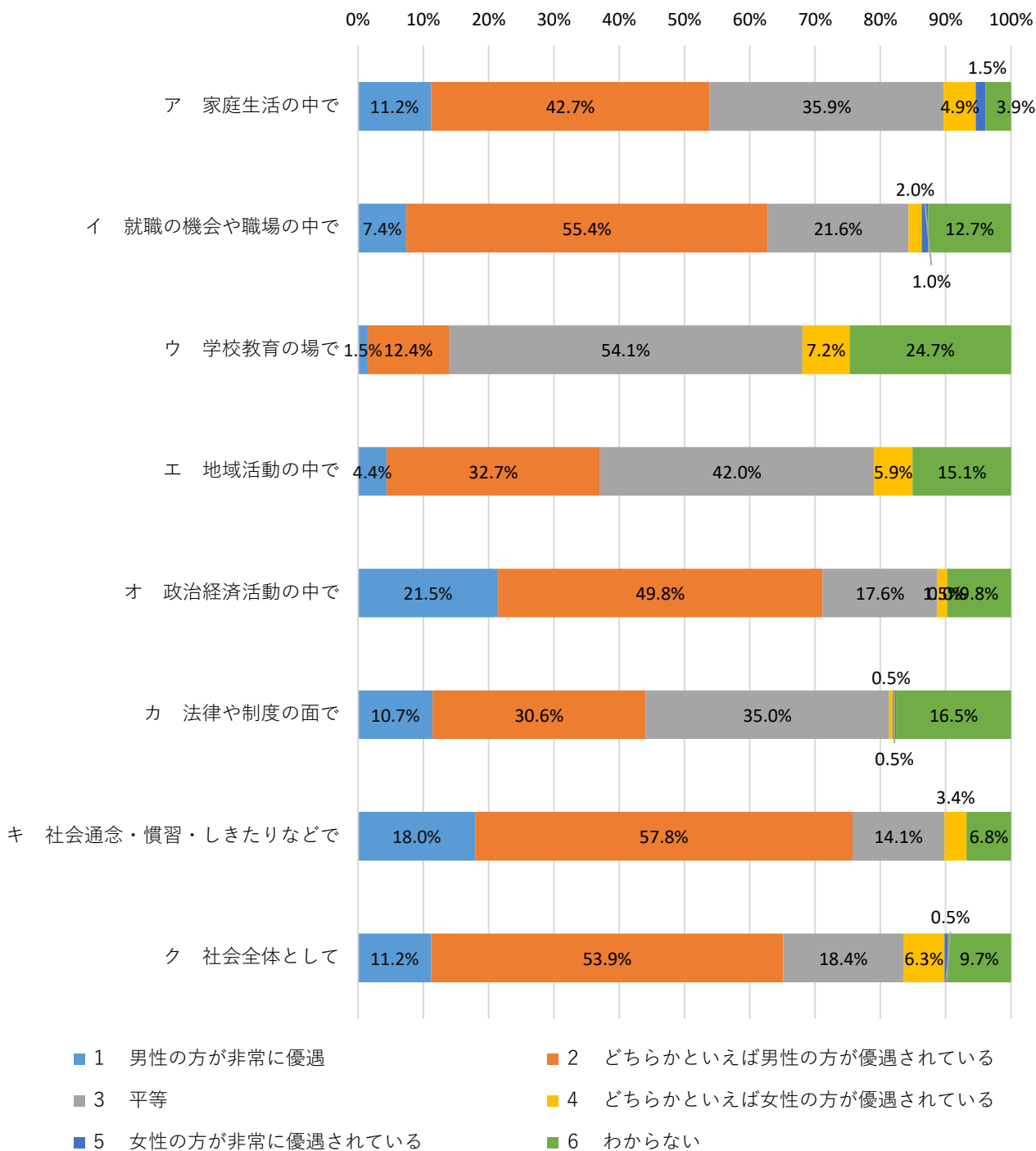
	男性		女性		その他		全体	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
いる	67	77.9	95	77.9	1	50.0	163	77.6
いない	19	22.1	27	22.1	1	50.0	47	22.4
計	86	100.0	122	100.0	2	100.0	210	100.0



### Ⅲ 調査結果

#### 1 男女の地位の平等について

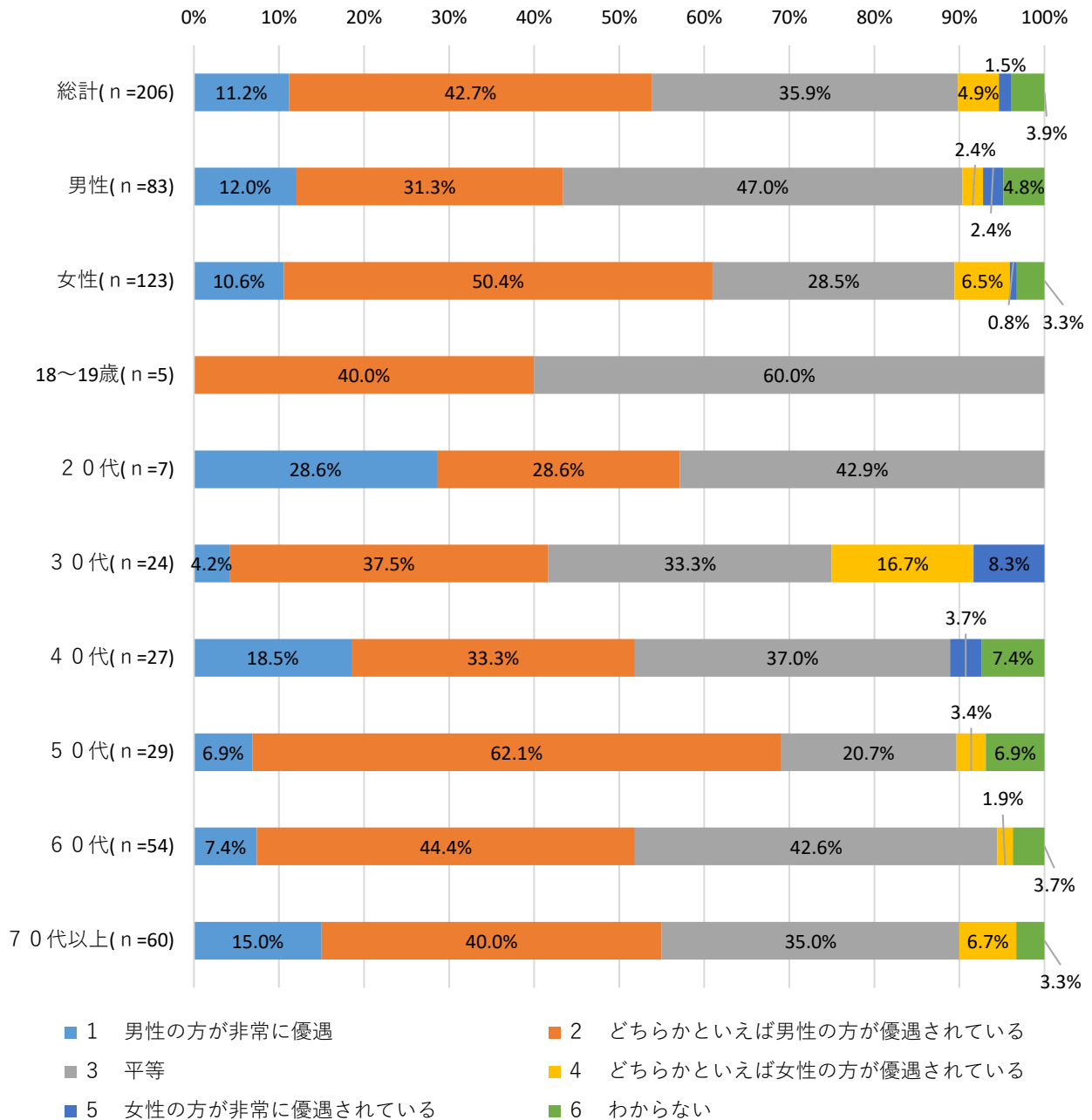
問1 あなたは、次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近いものを「ア」から「ク」の分野ごとに1つずつお答えください。



「平等」と認識する割合が最も高いのは「ウ 学校教育の場」であり、全体で 54.1%となっている。「エ 地域活動の中」で平等とした割合は全体で 42.0%である。「ア 家庭生活」で平等とした割合は全体 35.9%、「カ 法律や制度の面」では全体 35.0%であった。

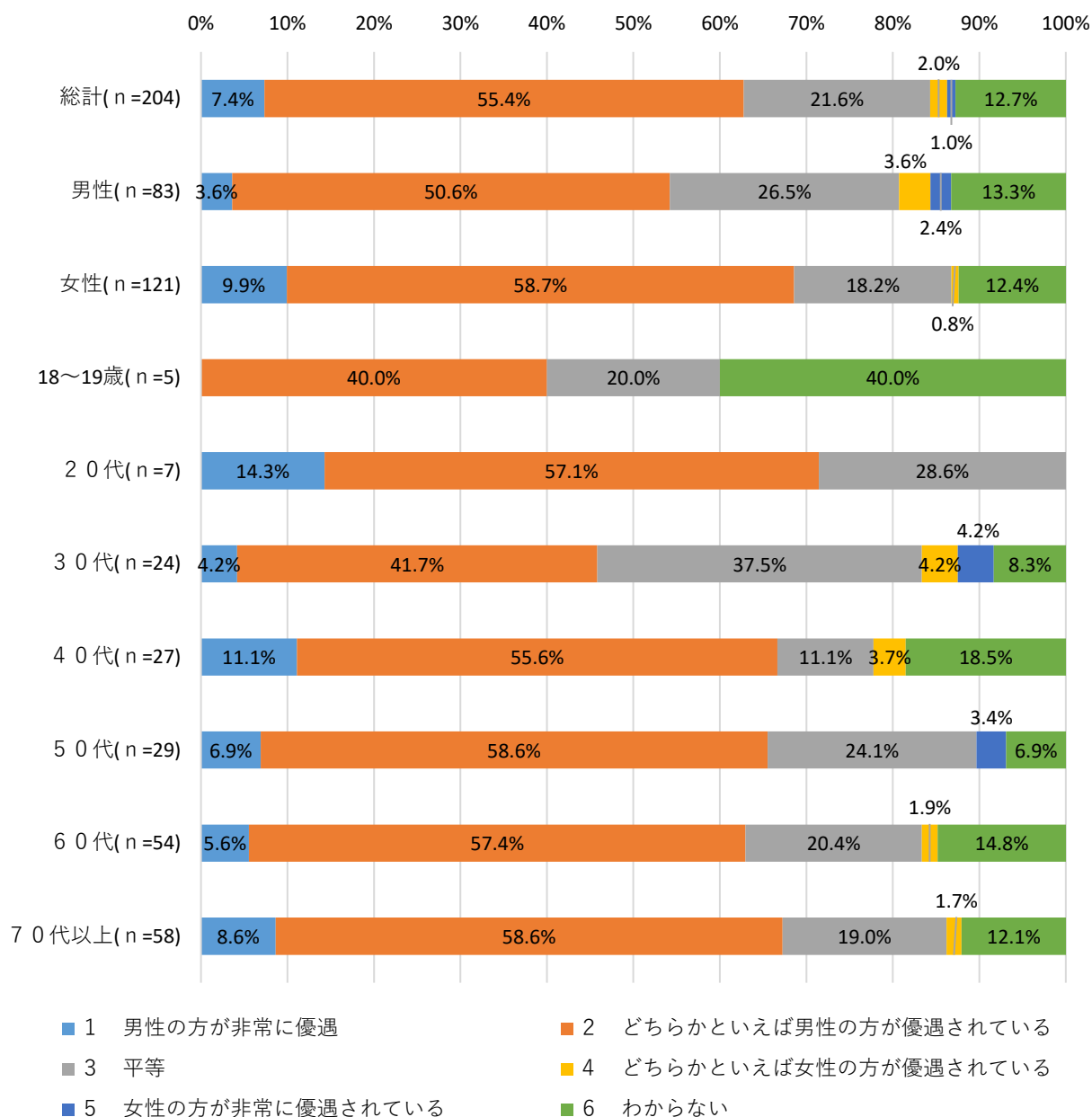
「学校教育の場」「地域活動の中」「家庭生活」などでは 3～5 割が平等と感じているが、「職場」「社会全体」では 2 割程度にとどまっている。一方、女性で「平等」と回答する割合は全ての分野で男性より低い値となっている。

## ア 家庭生活の中での平等感



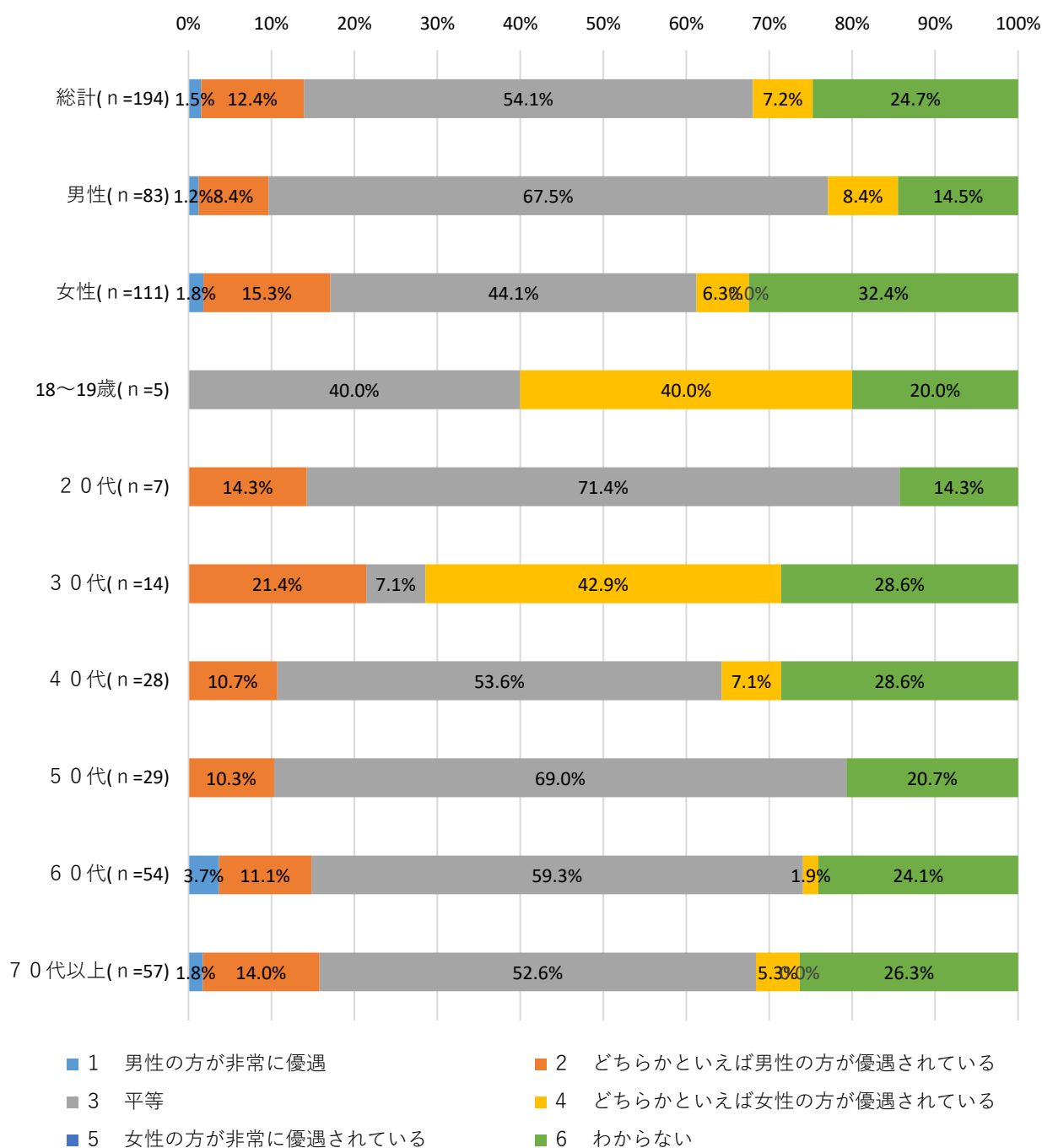
家庭生活の中での男女の地位の平等感について、「平等」と回答した割合は全体で 35.9%。男性は 47.0%、女性は 28.5% である。男性は女性より「家庭生活の中で平等」と感じる割合が高い。

## イ 就職の機会や職場の中での男女の地位の平等感



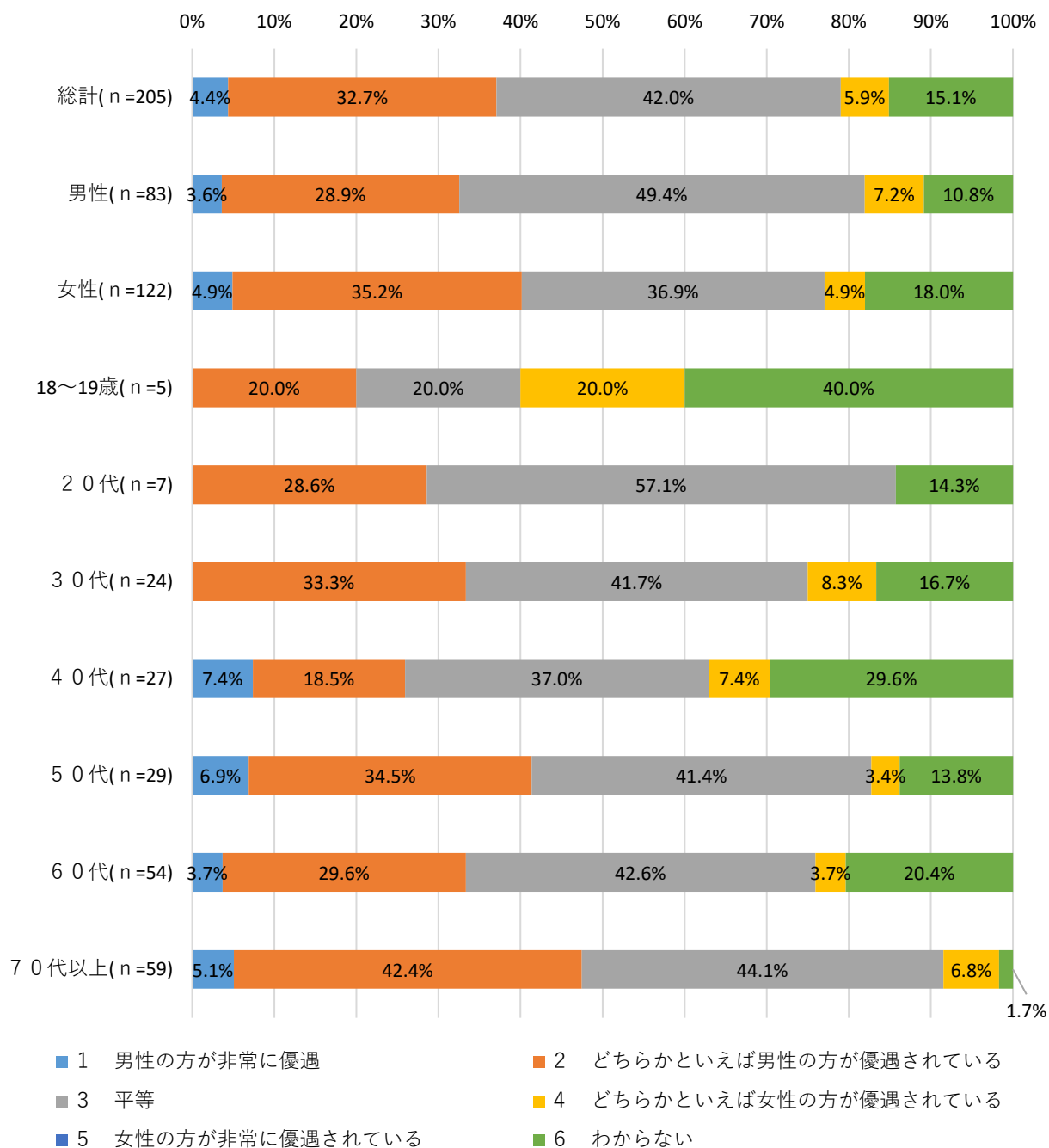
就職の機会や職場の中での男女の地位の平等感について、「平等」と回答した割合は全体で 21.6%。男性は 26.5%、女性は 18.2%である。どちらの性別も 2 割程度にとどまり、女性の方が「平等」と感じる割合が低い。

## ウ 学校教育現場での男女の地位の平等感



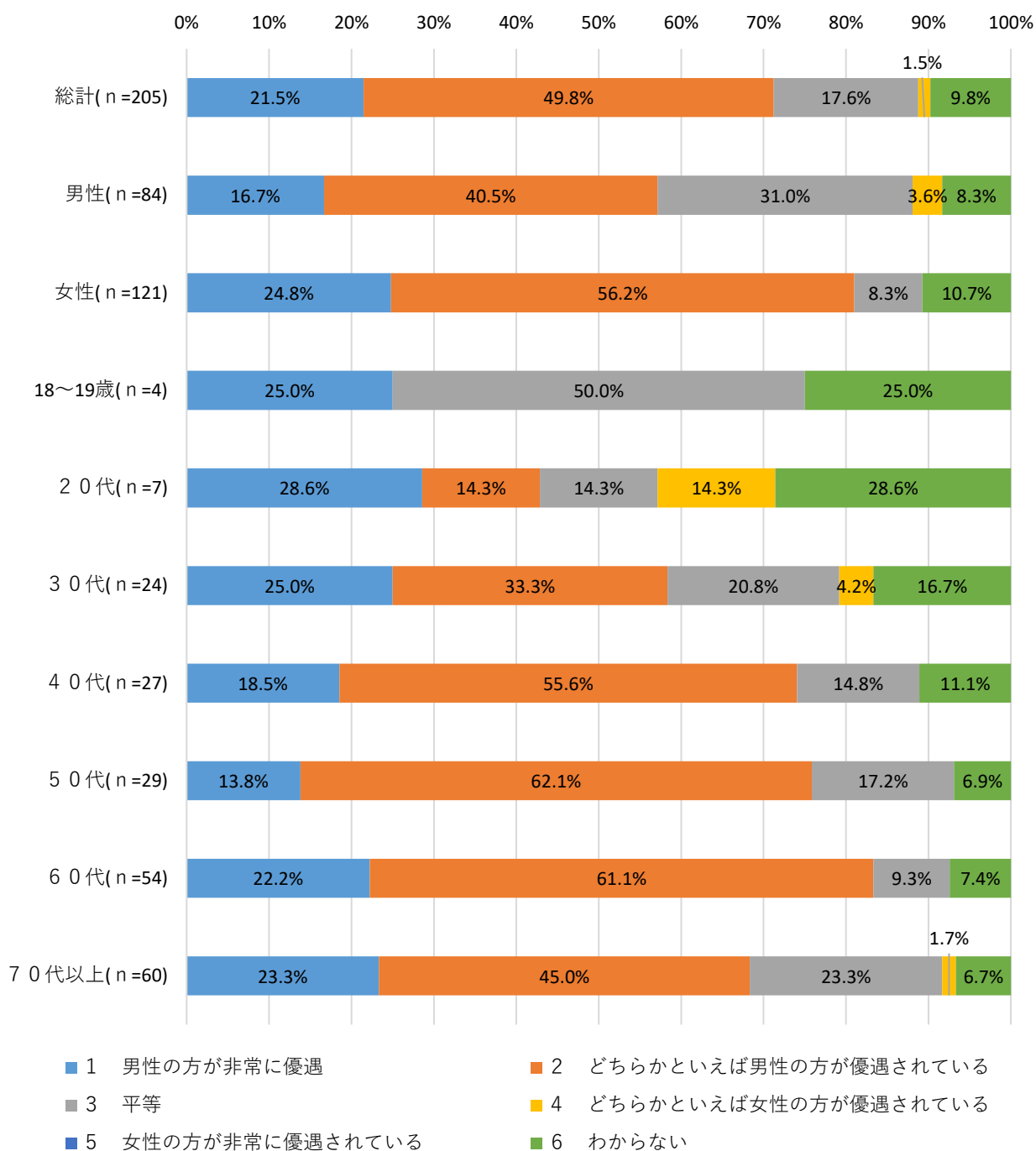
学校教育の場での男女の地位の平等感について、「平等」と回答した割合は全体で 54.1%。男性は 67.5%、女性は 44.1%である。8 分野中最も高い値を示している。

## 工 地域活動の中での男女の地位の平等感



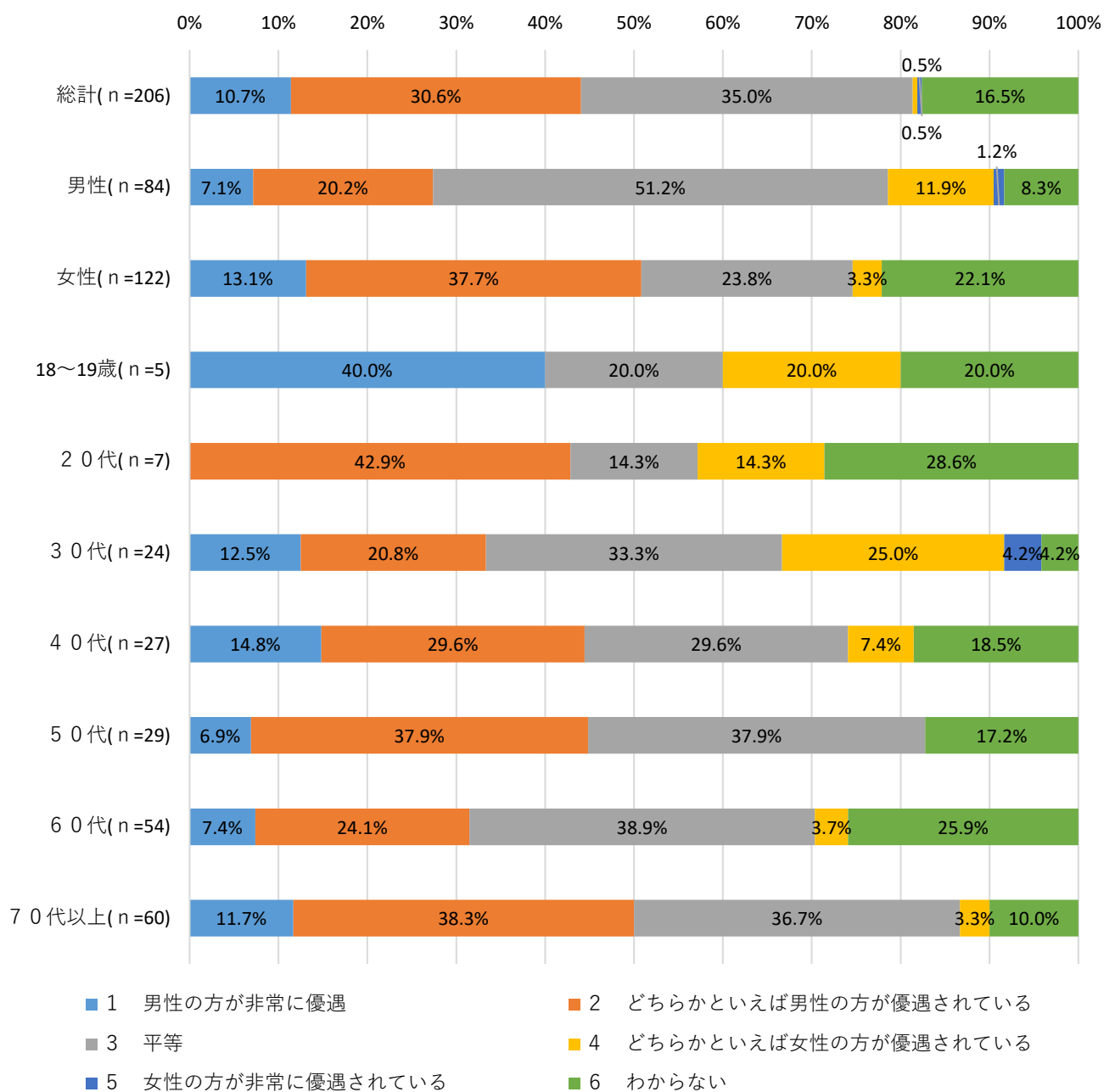
地域活動の中での男女の地位の平等感について、「平等」と回答した割合は全体で42.0%。男性49.4%、女性36.9%である。男性の方が「平等」と回答する割合が高い。

## オ 政治経済活動の中での男女の地位の平等感



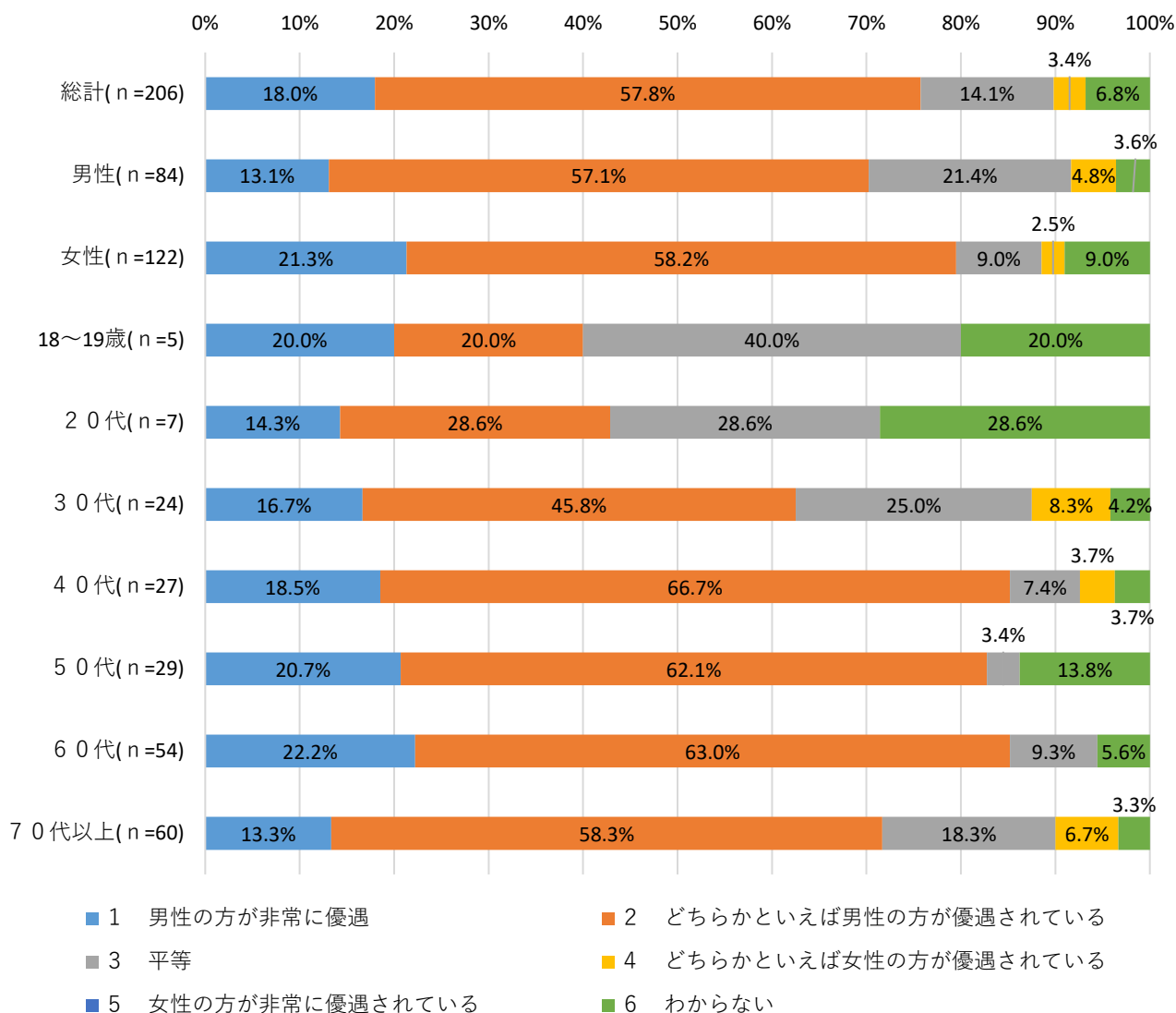
政治経済活動の中での男女の地位の平等感について、「平等」とした人は全体で17.6%。男性が31.0%、女性が8.3%である。女性の「平等」認識は1割未満にとどまっている。

## 力 法律や制度の面での男女の地位の平等感



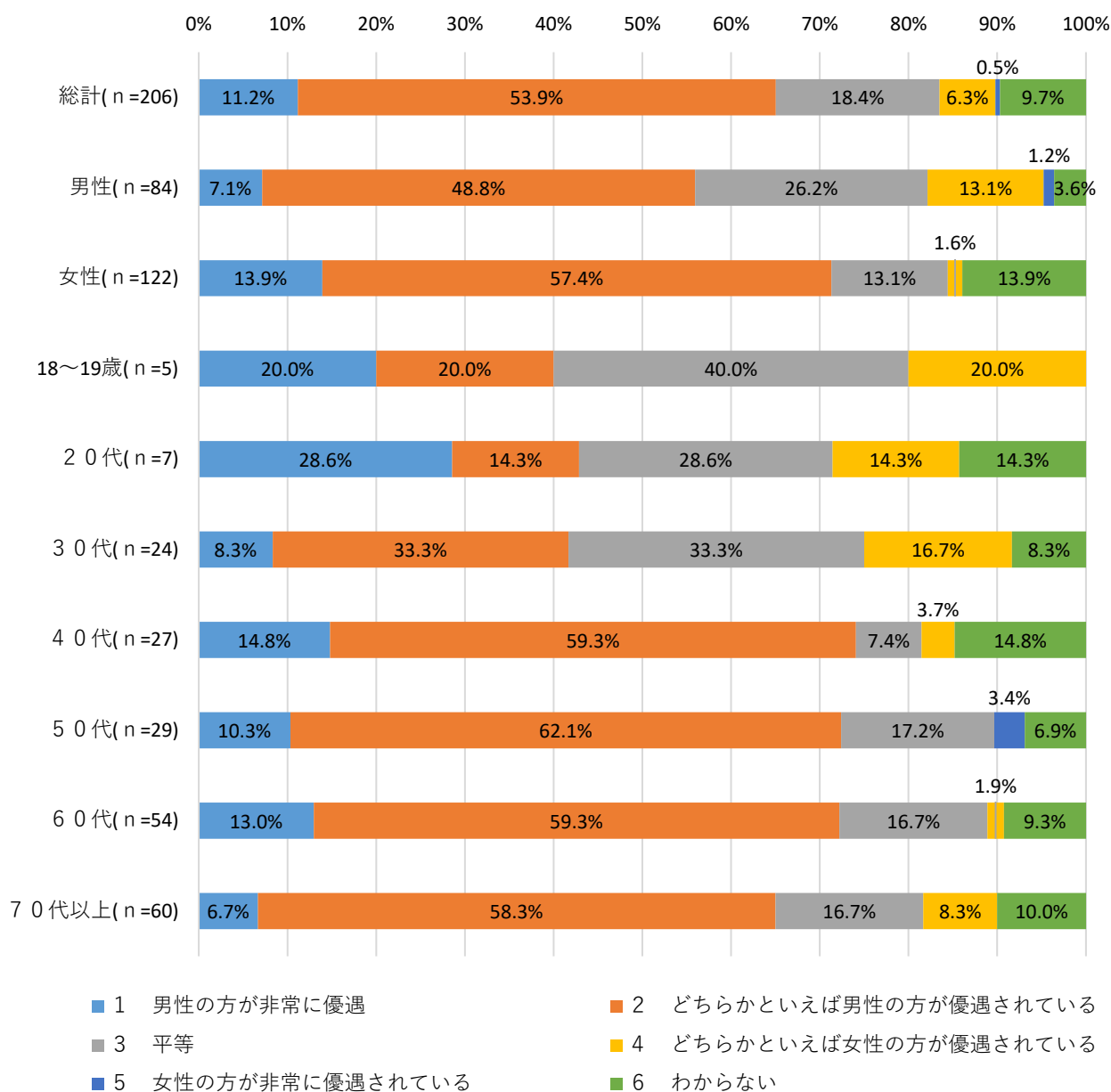
法律や制度の面での男女の地位の平等感について、「平等」と回答した割合は全体で 35.0%。男性は 51.2%、女性は 23.8% である。男性の方が平等と感じる割合が高い。

## キ 社会通念・慣習・しきたりでの男女の地位の平等感

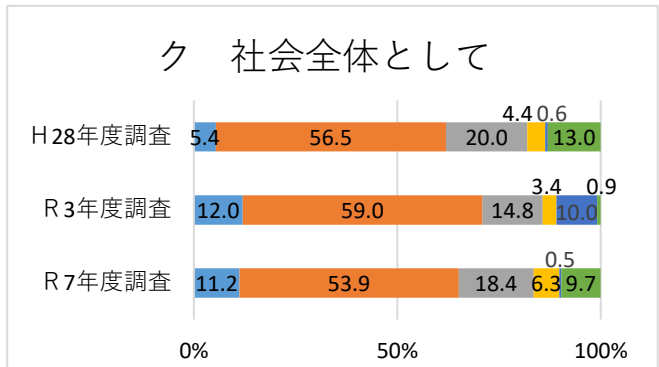
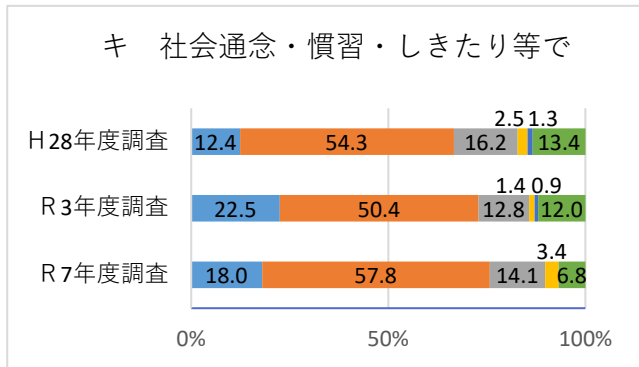
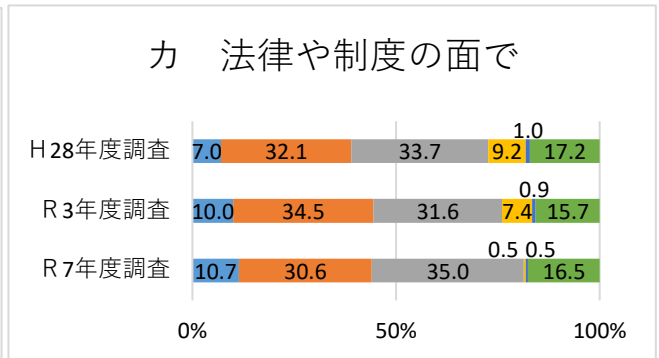
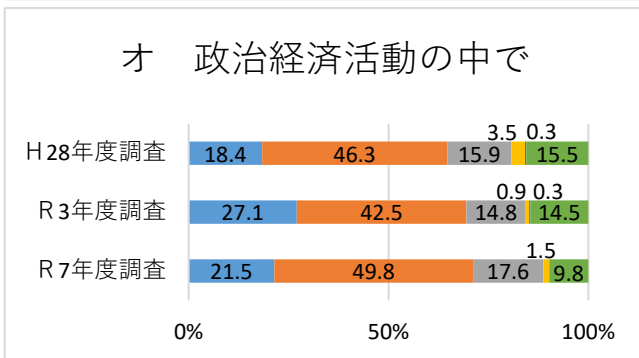
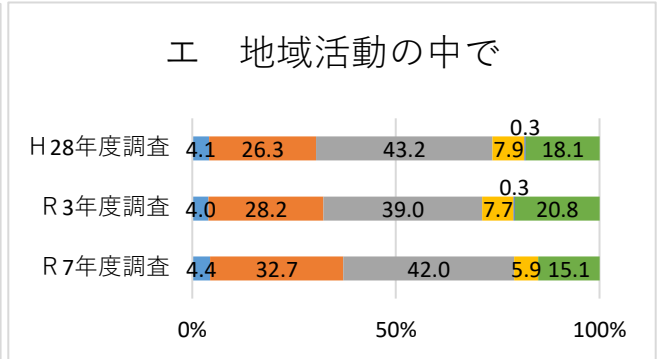
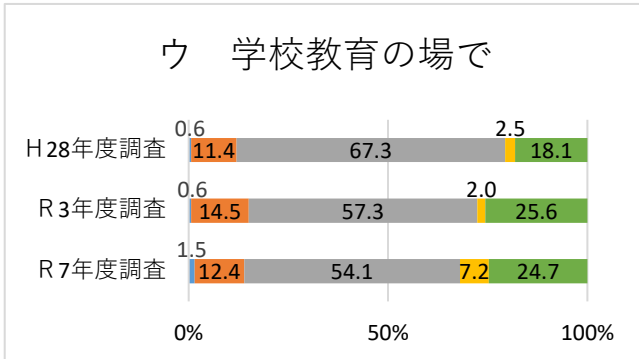
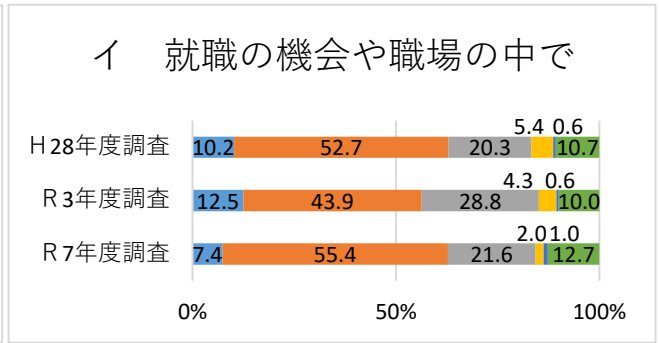
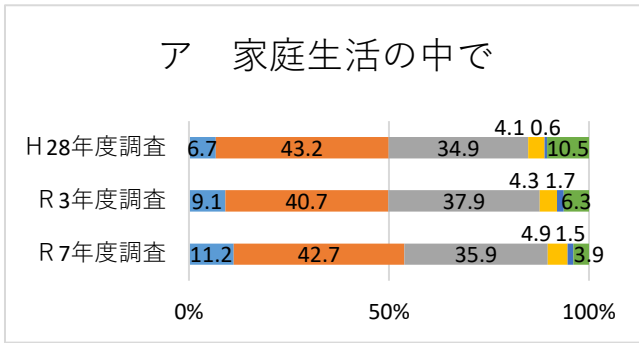


社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の地位の平等感について、「平等」と回答した割合は全体で 14.1%。男性では 21.4%、女性では 9.0%である。全体は他分野に比べて最も低い。

## ク 社会全体としての男女の地位の平等感

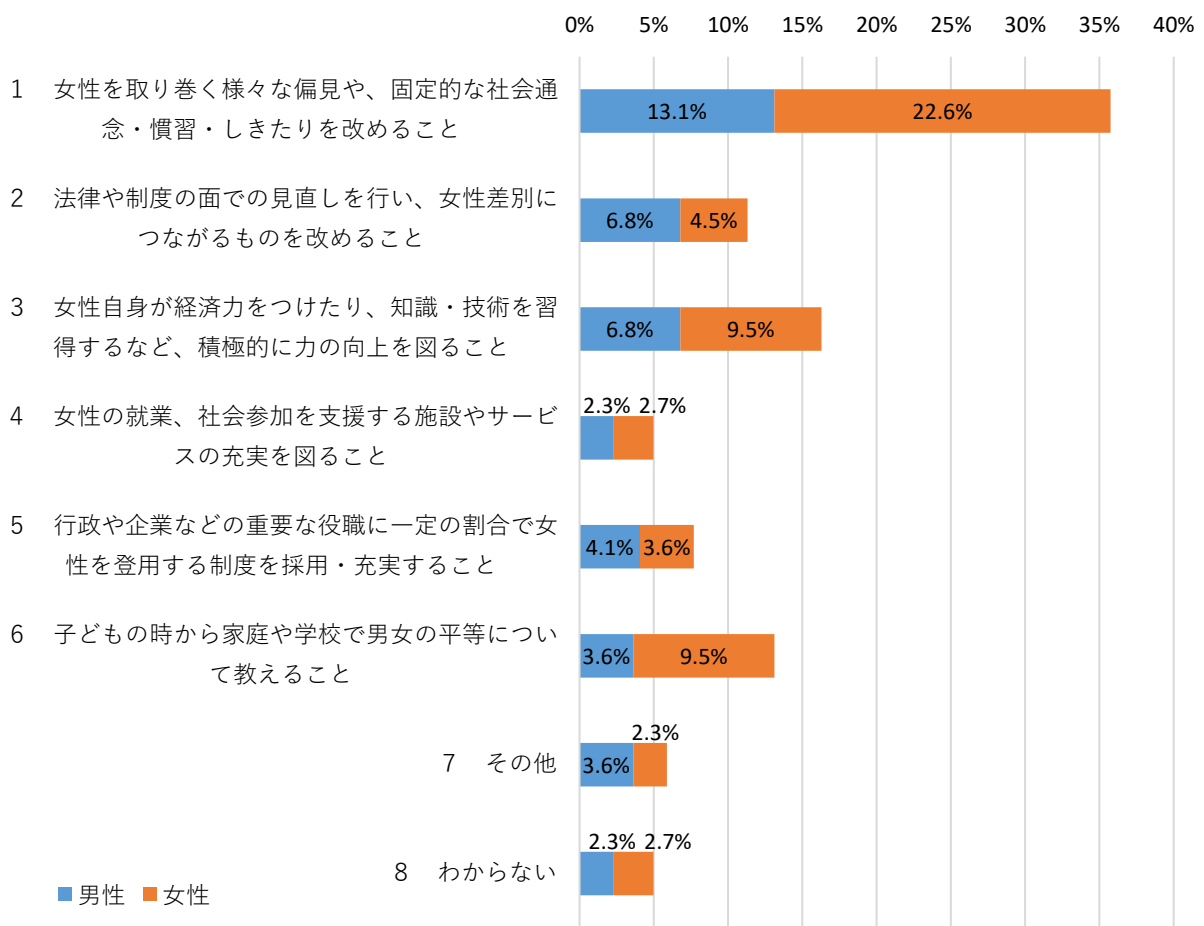


社会全体での男女の地位の平等感について、「平等」とした割合は全体で18.4%。男性26.2%、女性13.1%である。



令和7年調査では、特に「オ 政治経済活動」と「カ 法律や制度」の分野で「平等」と感じる人が増加した。

問2 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには何が重要だと思いますか。次の中からいくつかもあげてください。



n=221

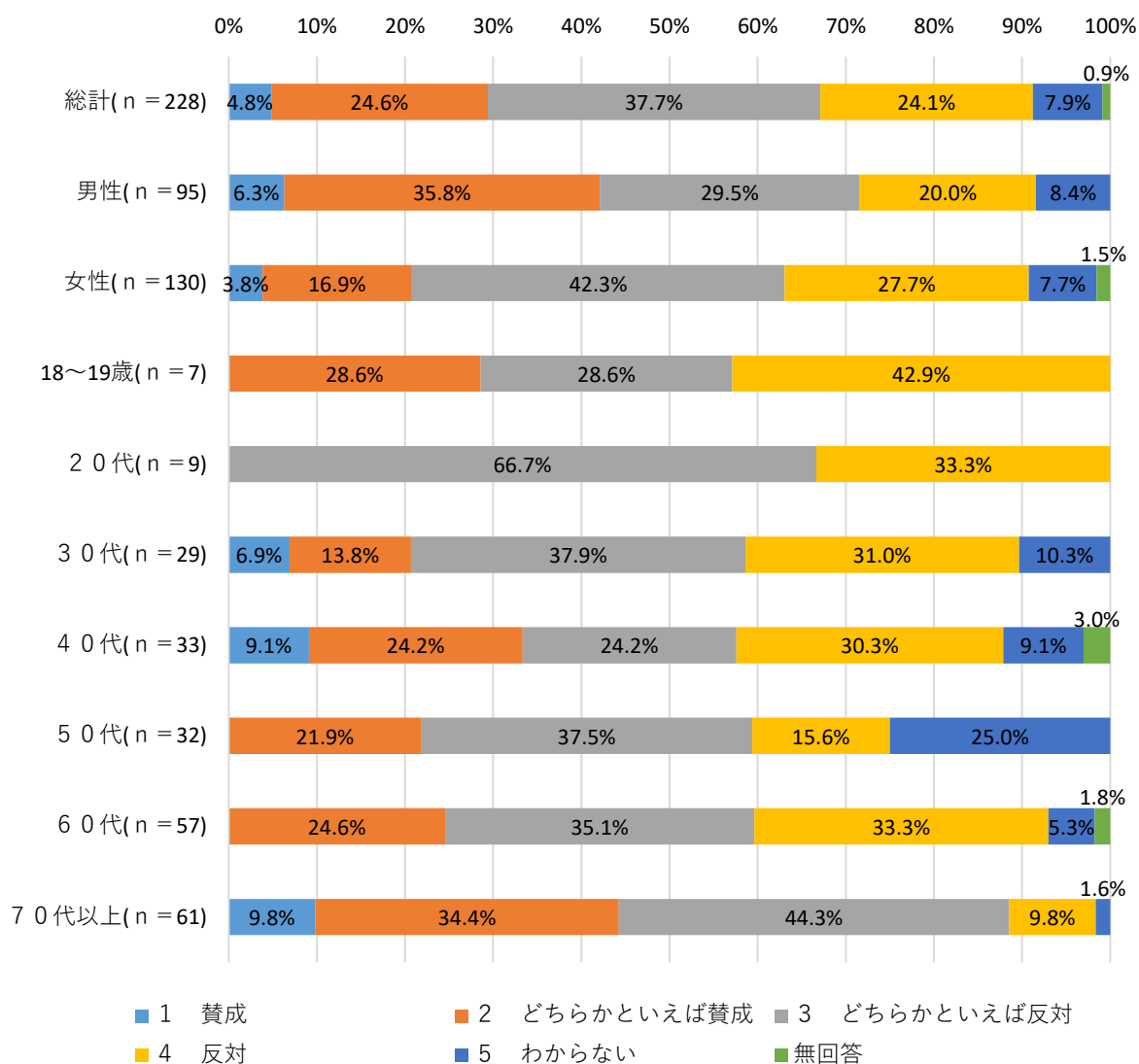
**\* その他**

- ・性別にとらわれず、「人」としてみること。
- ・子育てと家事は女性という意識をなくす。
- ・働きながら保育できる施設やしゅくみ(会社・職場に保育施設や病児保育・学童保育の利便性)

「偏見や固定的な社会通念・慣習を改めること」に着目する割合が男性 13.1%、女性 22.6%で最も多い。「女性自身の経済力や知識・技術の向上」(男性 6.8%、女性 9.5%)と「子どもの時からの平等教育」(男性 3.6%、女性 9.5%)も上位となっている。

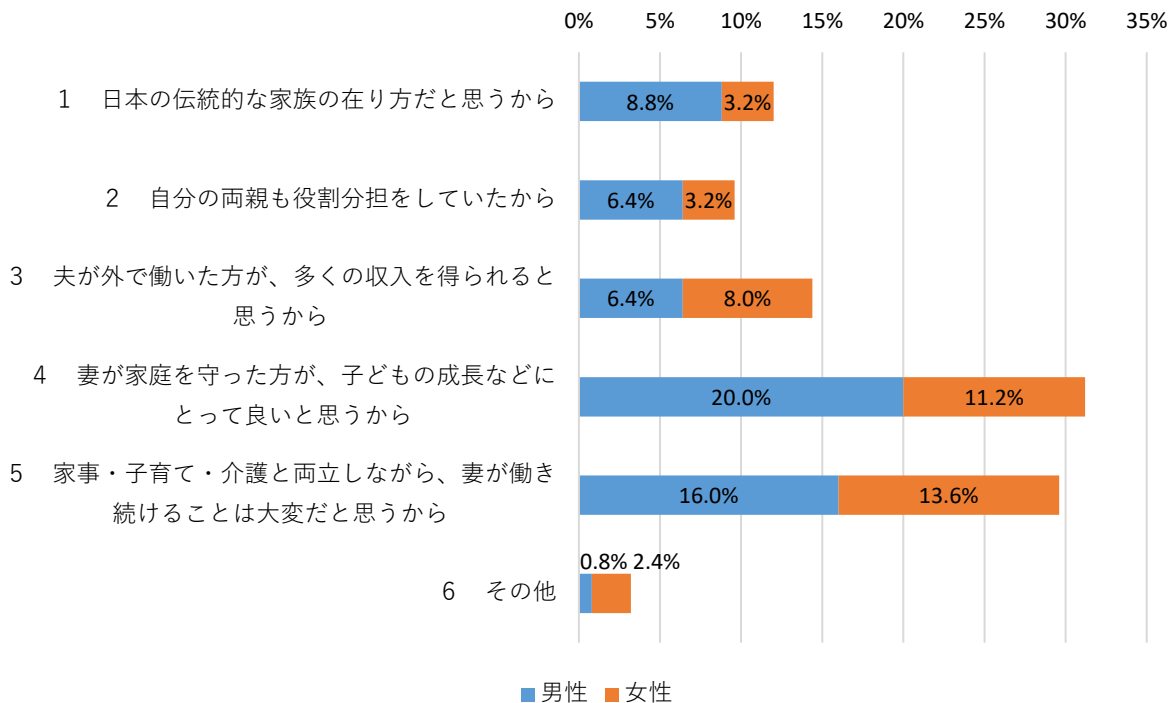
## 2 男女の生き方について

問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどうか考えですか。次の中から1つだけお答えください。



この考え方に賛成・どちらかといえば賛成は男性 42.1%、女性 20.7%、反対・どちらかといえば反対は男性 49.5%、女性 70.0%である。年代別にみると、50代では「わからない」が4分の1を占めた。

問4 問3で「1賛成」「2どちらかといえば賛成」を選んだ方に伺います。その理由は何ですか。次の中からいくつでもあげてください。



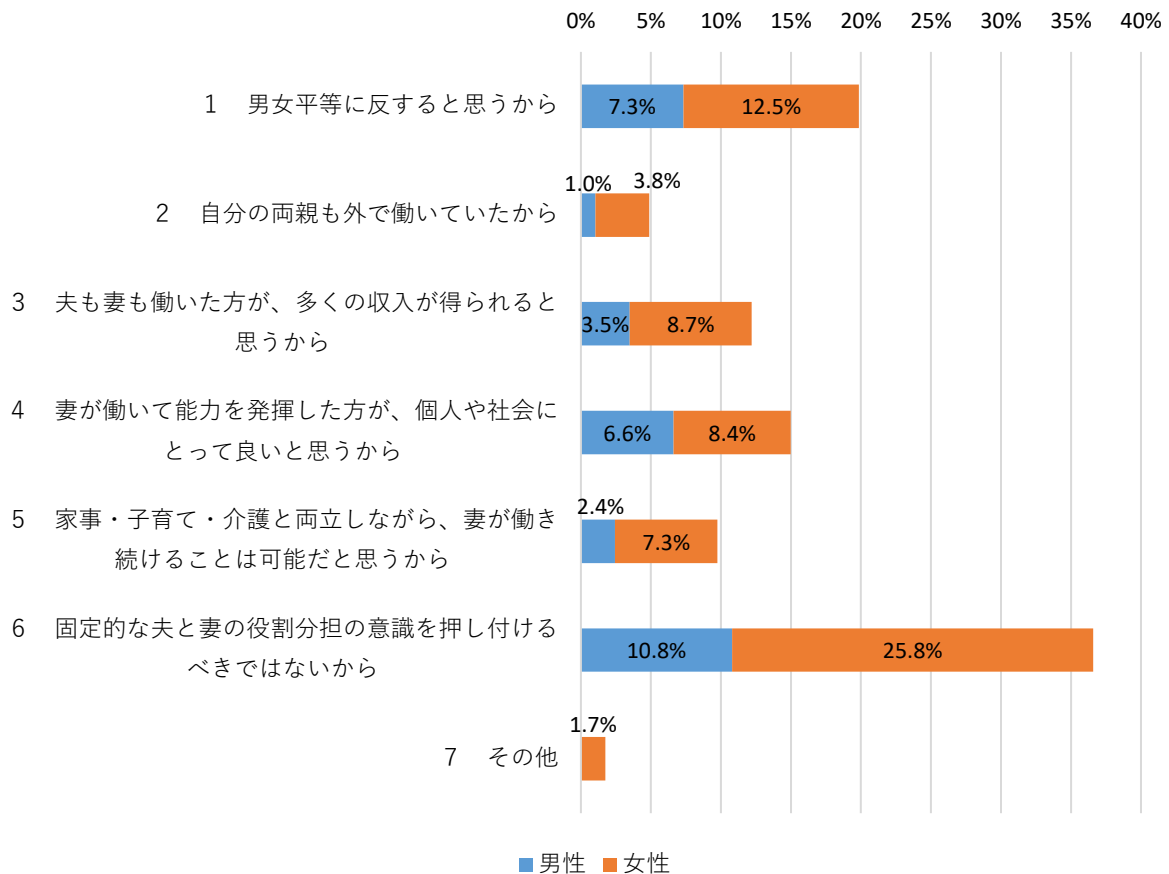
n = 125

\* その他

- ・結局子どもに何かあると母親が動かないといけないから。
- ・働いていると女性特有の症状(生理痛など)で休めないから。
- ・子供が3歳までは誰かに預けてとかではなく自分の手で子育てをしたい。そこから、しっかり働けるような社会になってほしい…。

問3で「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に「1賛成」または「2 どちらかといえば賛成」を選択した理由を聞いたところ、「妻が家庭を守った方が子どもの成長に良い」としたのは男性 20.0%、女性 11.2%で最も多い。

問5 問3で「3どちらかといえば反対」「4反対」を選んだ方に伺います。その理由は何ですか。次の中からいくつでもあげてください。



n = 287

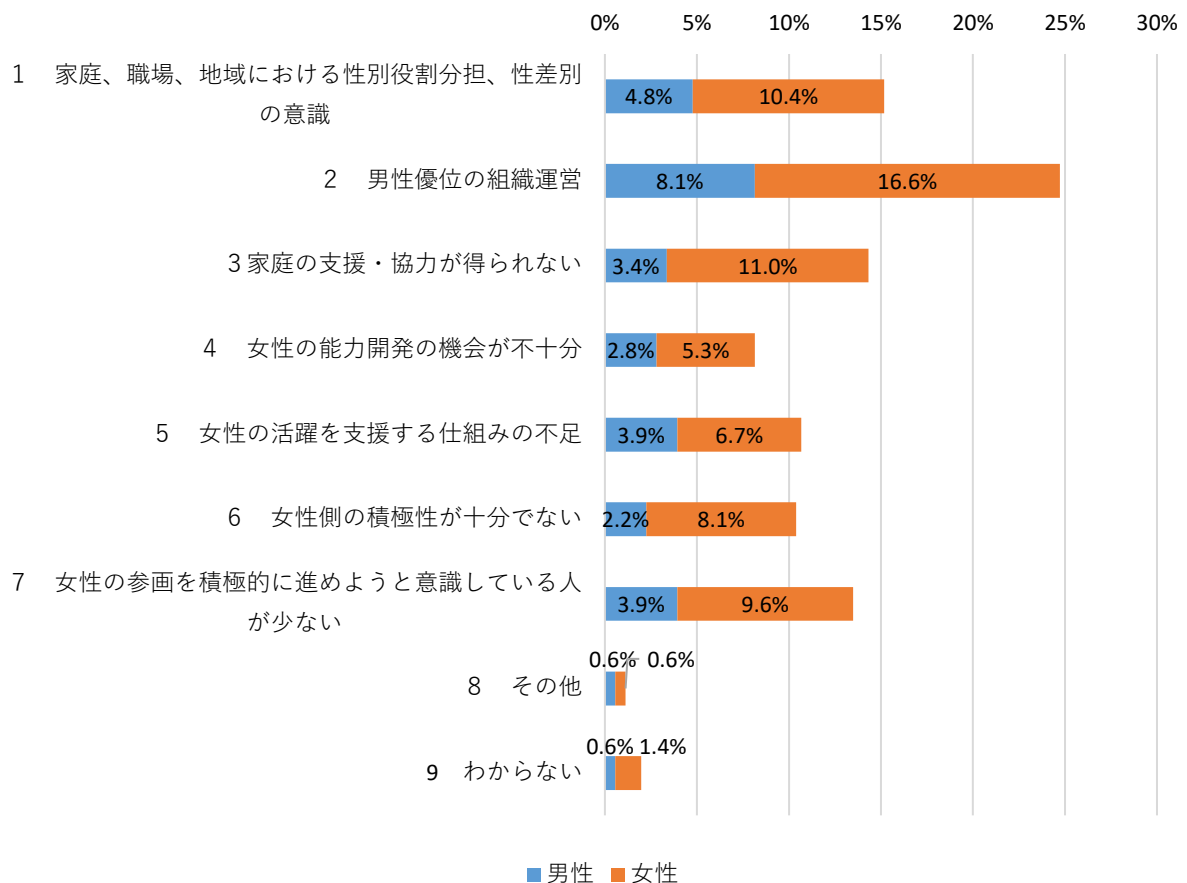
\* その他

- ・男性でも家庭内の仕事に向いている人はいるし、逆に女性でも外に出て働く方が向いている人はいるから。
- ・それぞれの考えや生き方を強制しないことが大事。仕事が好きな妻と家事が好きな夫がいても良いと思うが、それを否定しないことが大事と思う

問3で「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に「3どちらかといえば反対」または「4反対」を選択した理由を聞いたところ、最も回答割合が高かったのは、「固定的な役割分担意識を押し付けるべきではない」で男性 10.8%、女性 25.8%だった。

### 3 女性の活躍について

問6 社会の中で意思決定の場に女性の参画が少ない理由は何ですか。次の中からあてはまるものをいくつでもあげてください。



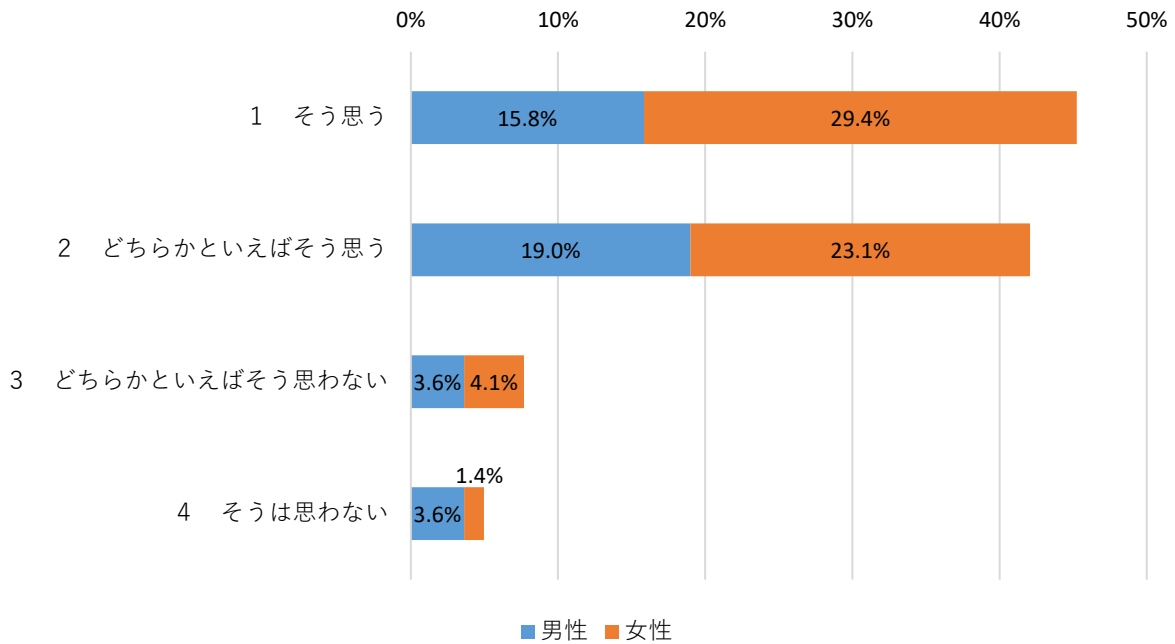
n = 356

#### \* その他

- ・子育て中は社会よりも家庭を優先するから。
- ・世界のトップに女性もたくさんいる為、意思決定の場に女性の参画が少ないとは思わない。

「男性優位の組織運営」と回答したのは男性 8.1%、女性 16.6%、「性別役割分担や差別の意識」は男性 4.8%、女性 10.4%である。

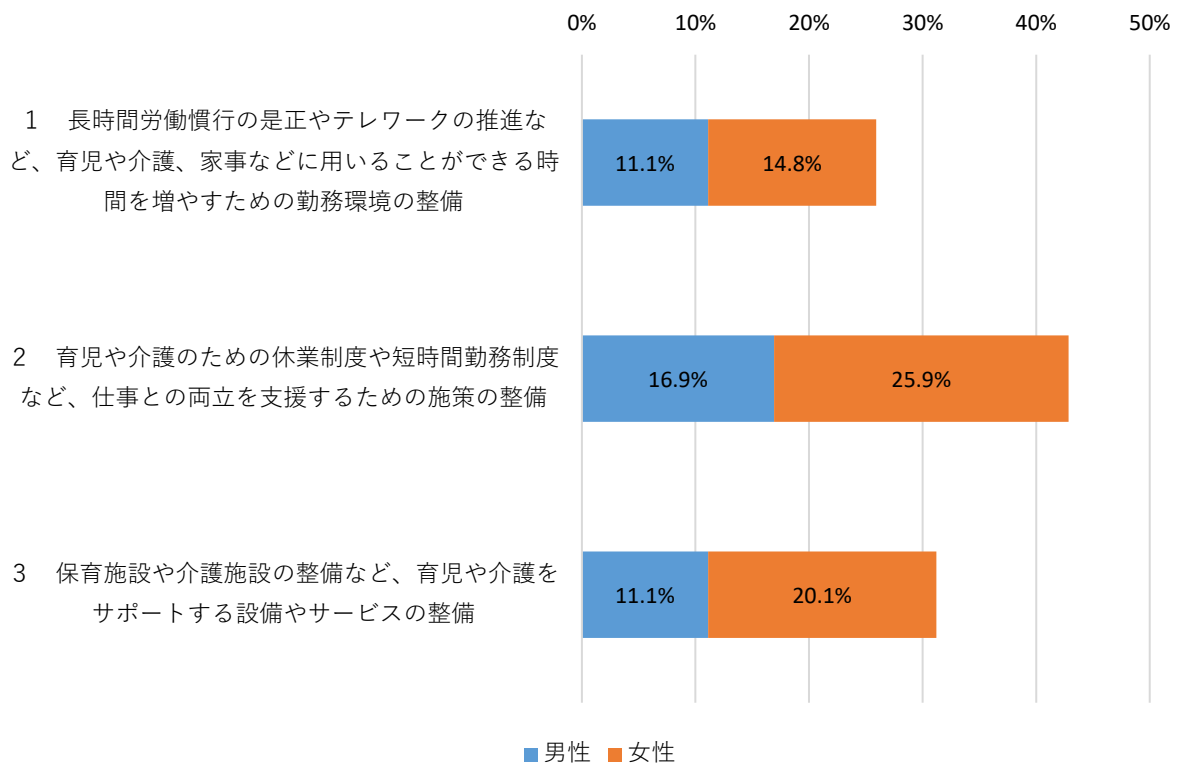
問7 総務省の「令和3年社会生活基本調査」によると、夫婦共働き世帯において、1日の中で、育児や介護、家事などに費やす時間を男女別に比較すると、男性は43分、女性は4時間18分となっています。育児や介護、家事などに女性のほうが多く時間を費やしていることが、職業生活における女性の活躍が進まない要因の一つだという意見がありますが、あなたはどのように思いますか。次の中から1つだけお答えください。



n = 221

「1 そう思う」と「2 どちらかといえばそう思う」と答えた人は、合わせて全体 87.3%、男性 34.8%、女性 52.5%となった。

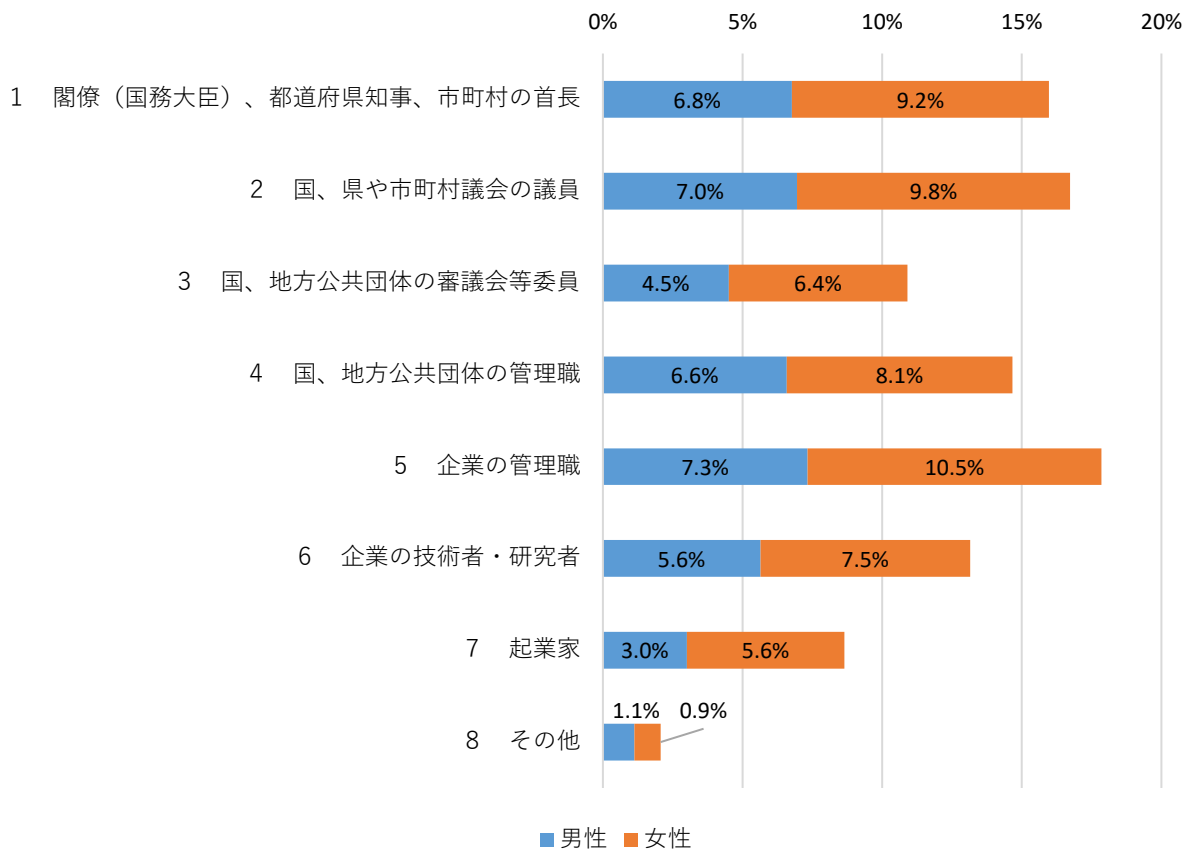
問8 問7で「1 思う」「2 どちらかといえば思う」を選んだ方に伺います。育児や介護、家事などに費やす時間を男女間でバランスのとれたものとし、職業生活における女性の活躍をさらに推進するためには、特にどのような支援が必要だと思いますか。次の中から1つだけお答えください。



n = 189

最も回答の割合が高かったのは、「2 育児や介護のための休業制度や短時間勤務制度など、仕事との両立を支援するための施策の整備」で合わせて全体 42.8%、男性 16.9%、女性 25.9%だった。次いで、「3 保育施設や介護施設の整備など、育児や介護をサポートする設備やサービスの整備」が全体 31.2%、男性 11.1%、女性 20.1%だった。

問9 あなたは、今後どのような分野で女性の参画が進むべきだと思いますか。次の中からいくつでもあげてください。



n = 532

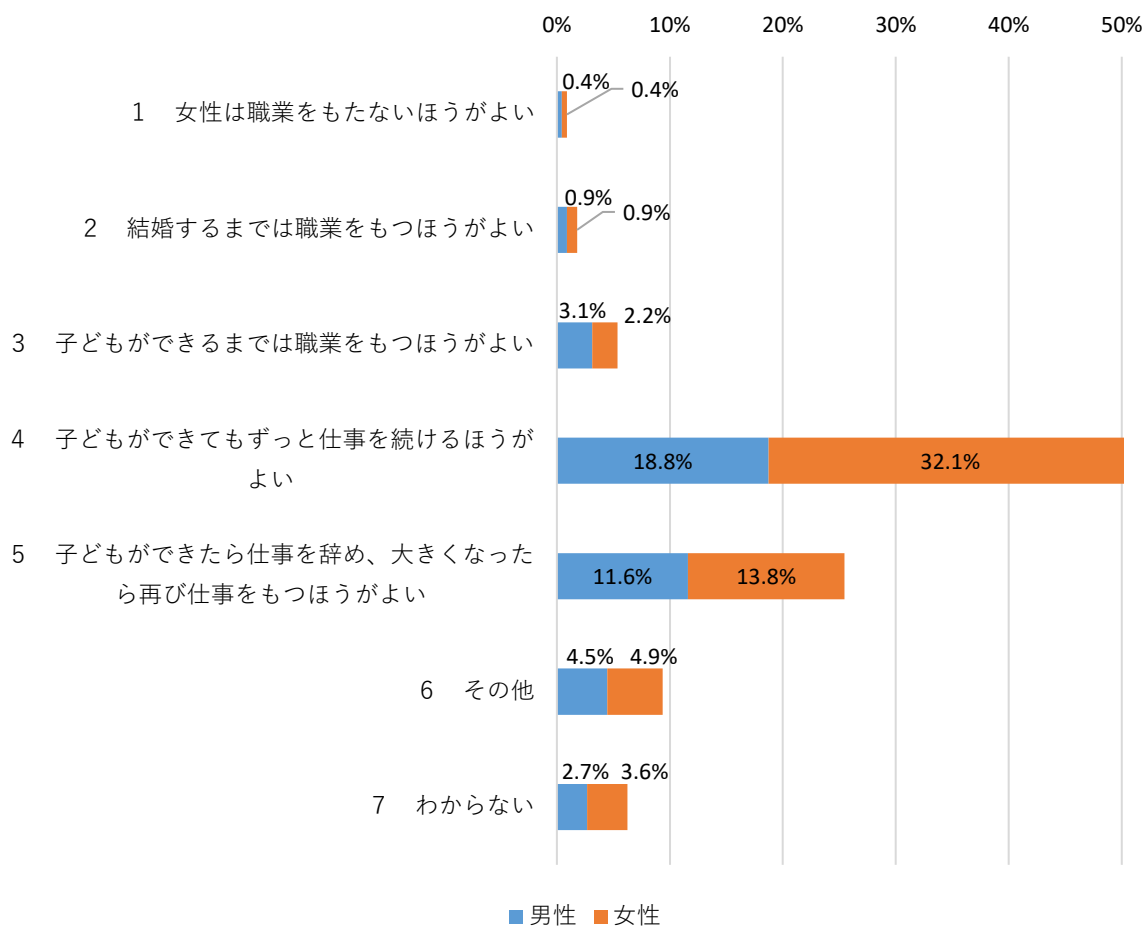
\* その他

- ・正規雇用の従業員
- ・どの分野も全て

上位3つは、「5 企業の管理職」(全体 17.8%、男性 7.3%、女性 10.5%)「2 国、県や市町村議会の議員」(全体 16.8%、男性 7.0%、女性 9.8%)「1 閣僚(国務大臣)、都道府県知事、市町村の首長」(全体 16.0%、男性 6.8%、女性 9.2%)の順となった。

## 4 女性と仕事について

問10 一般的に女性が職業をもつことについてどう思いますか。次の中から1つだけお答えください。

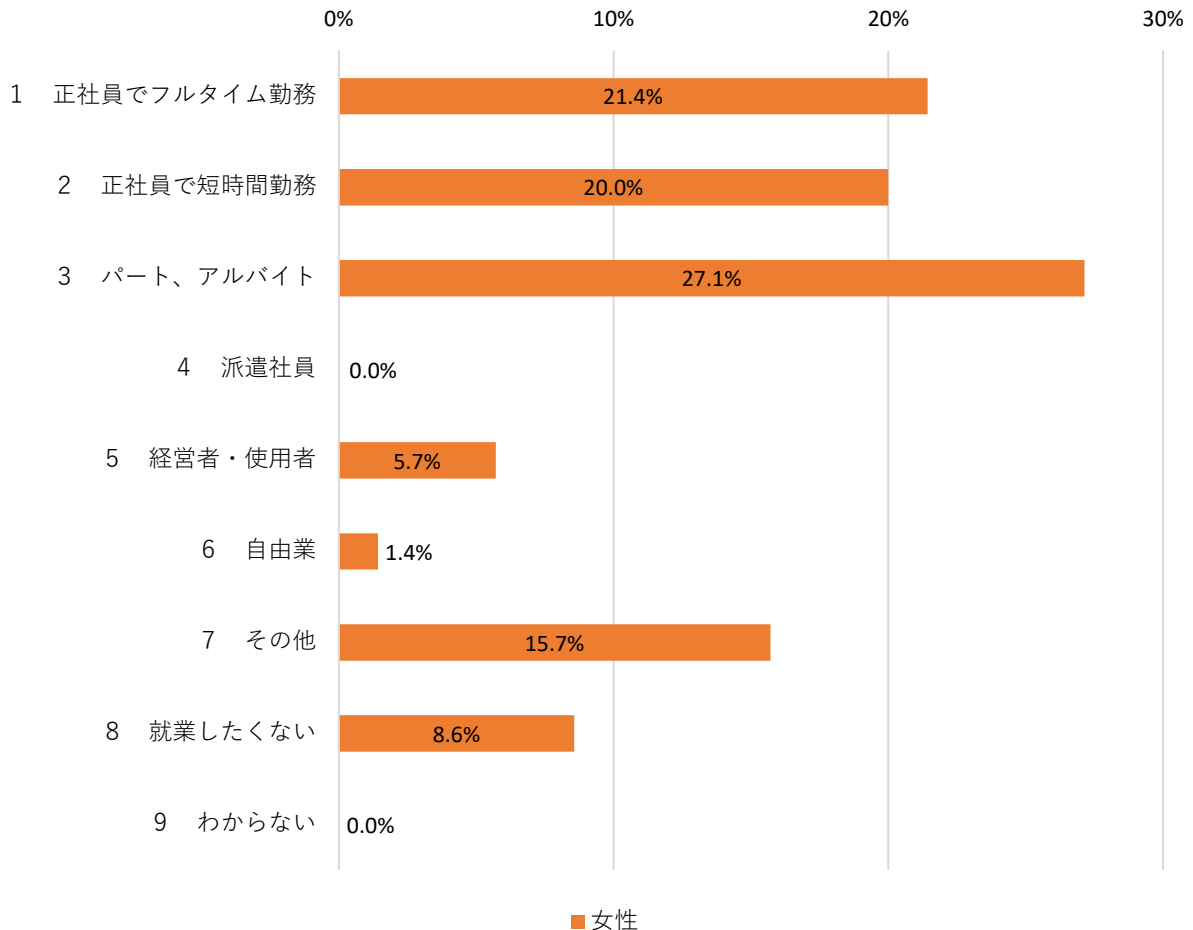


n = 224

「4 子どもができてもしっかりと仕事を続けるほうがよい」が全体 50.9%、男性 18.8%、女性 32.1%と最も回答数が多かった。

【問 11 は現在就労していない女性の方だけにおたずねします。】

問11 一般的今後就業するとしたら、どのような働き方を希望しますか。次の中から1つだけお答えください。に女性が職業をもつことについてどう思いますか。次の中から1つだけお答えください。



n = 70

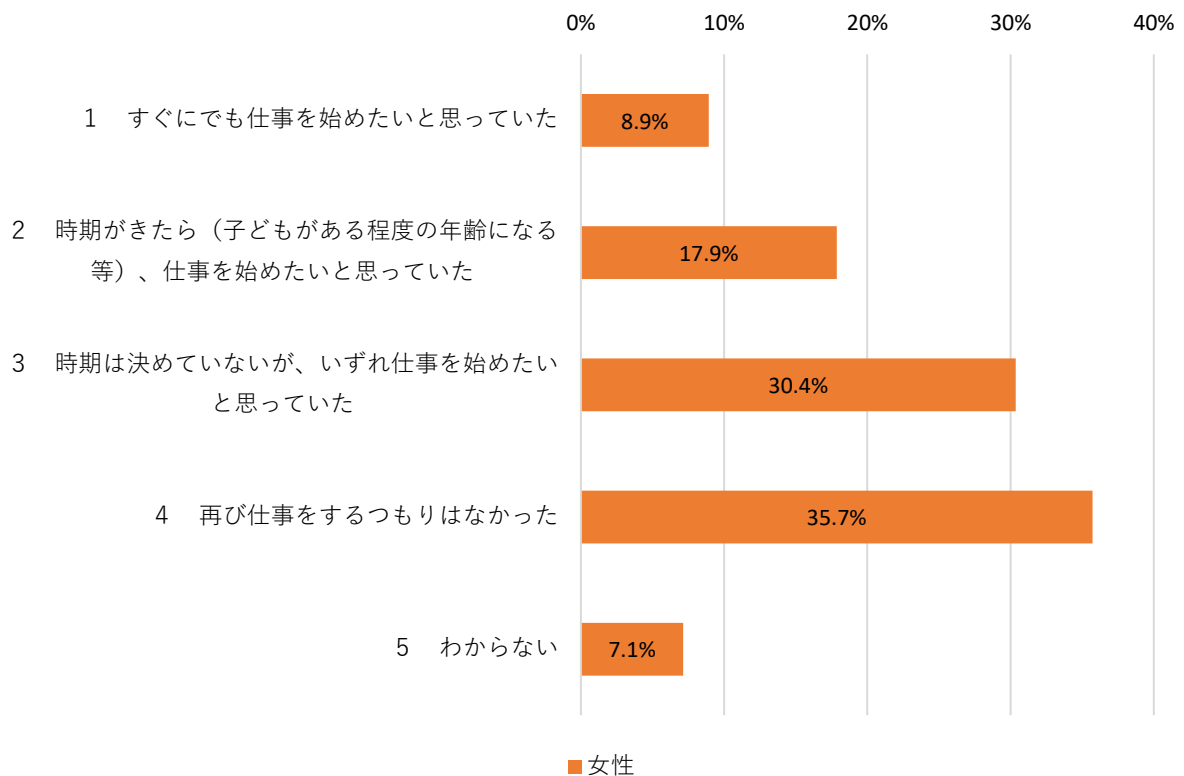
\* その他

- ・能力に応じた働き方で選択したい。
- ・既に定年を迎えている。

「3 パート、アルバイト」が 27.1%で最も回答数が多く、次いで「1 正社員でフルタイム勤務」が 21.4%、「2 正社員で短時間勤務」20.0%と続いた。

【問 12 は過去に就労経験があり、現在就労していない女性の方だけにおたずねします。】

問12 離職したとき、再び仕事を始めたいと思っていましたか。次の中から1つだけお答えください。

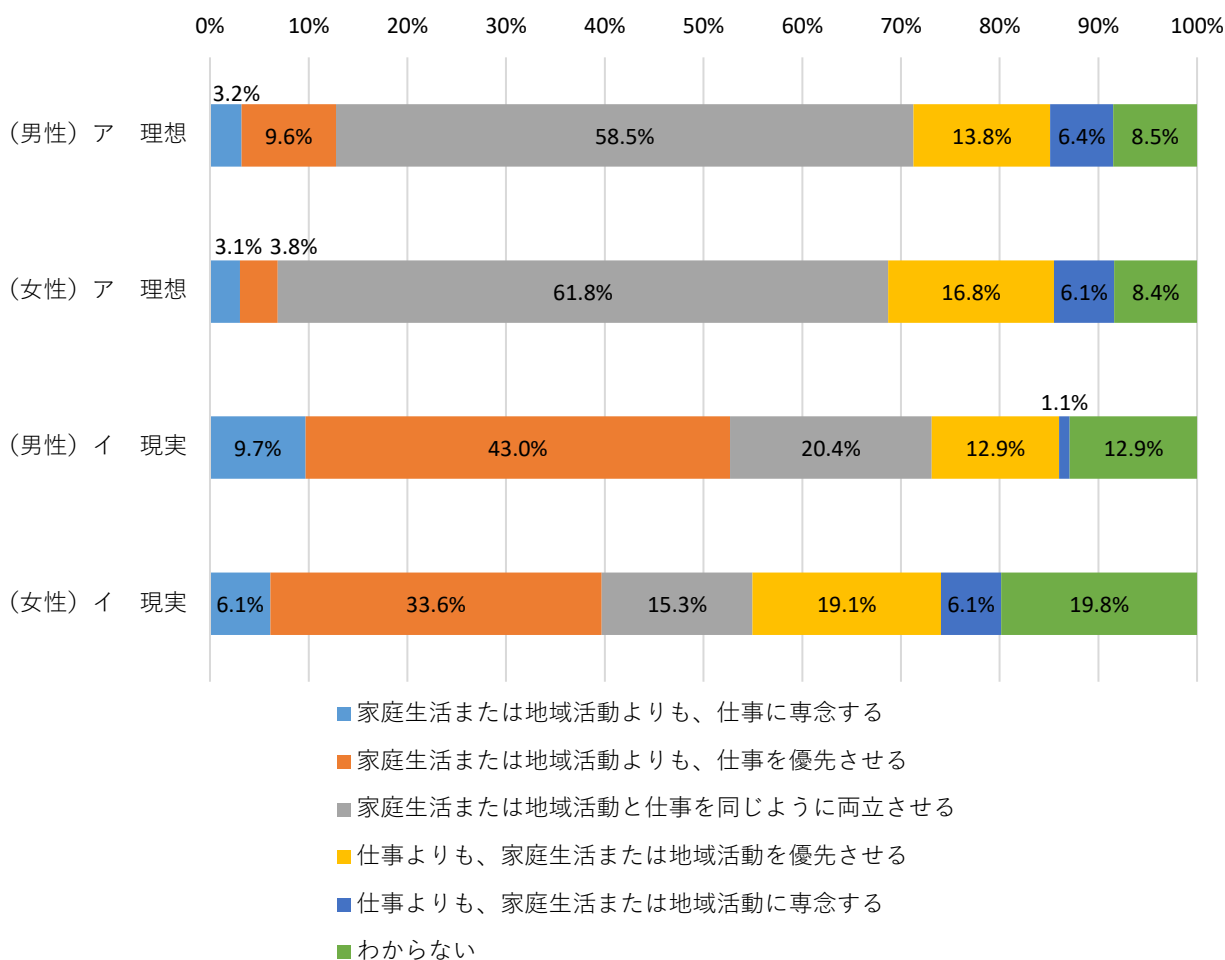


n = 56

「4 再び仕事をするつもりはなかった」が 35.7% で最も回答数が多く、次いで「3 時期は決めていないが、いずれ仕事を始めたいと思っていた」が 30.4%、「2 時期がきたら（子どもがある程度の年齢になる等）、仕事を始めたいと思っていた」17.9% と続いた。

## 5 仕事と家庭・地域活動の両立について

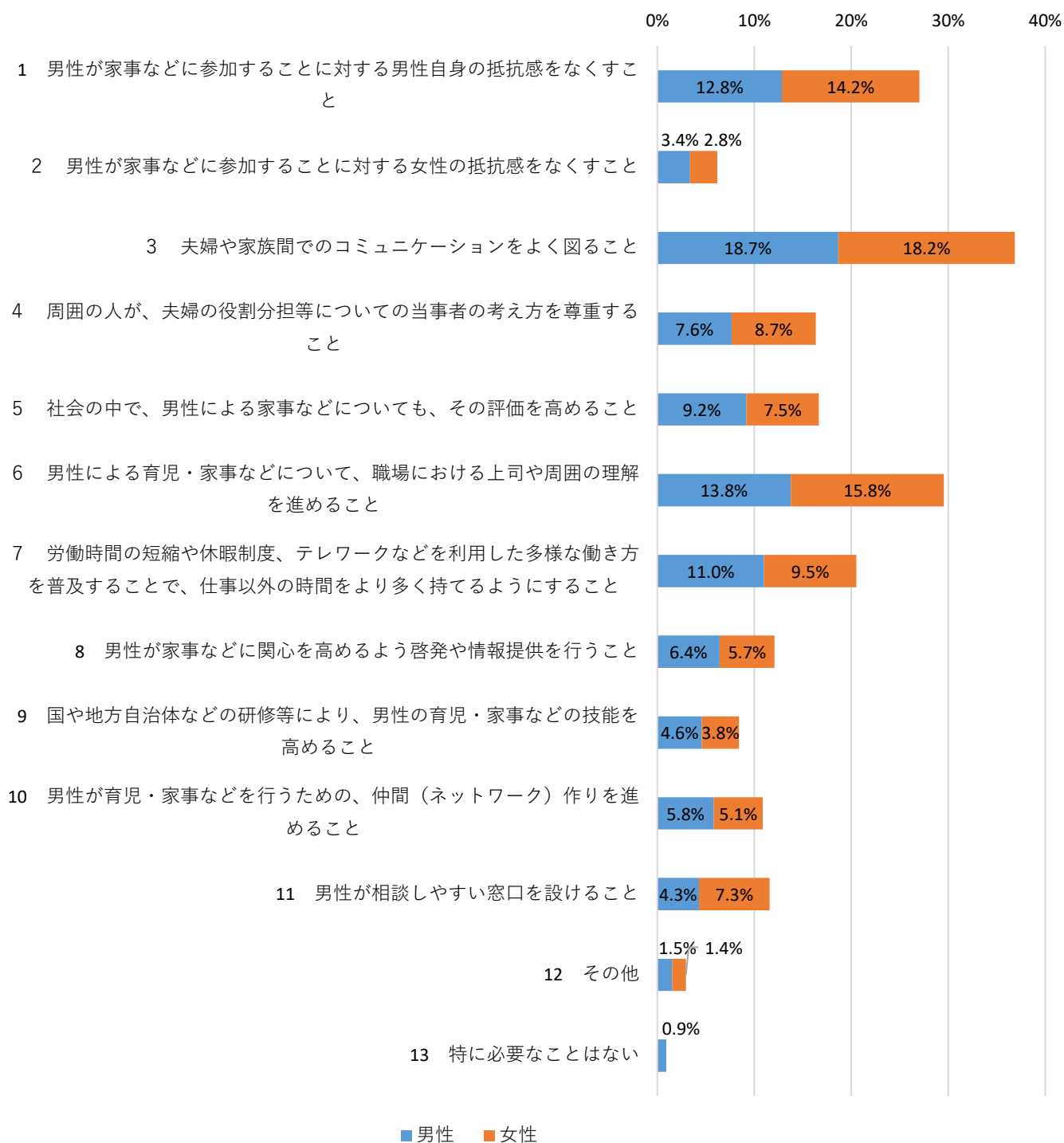
問13 仕事と家庭生活または自治会やボランティアなどの地域活動とのバランスについて、1～6の中であなたの「理想」に最も近いものを1つだけお答えください。また、「現実」に最も近いものを1つだけお答えください。



男性 n = 94、女性 n = 131

理想は男性・女性ともに約6割の人が「家庭生活または地域と同じように両立させる」と回答した。一方、現実には男性43.0%、女性33.6%の人が「家庭生活または地域活動よりも、仕事を優先させる」が最も多い回答だった。

問14 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中からいくつでもあげてください。



男性 n = 327、女性 n = 494

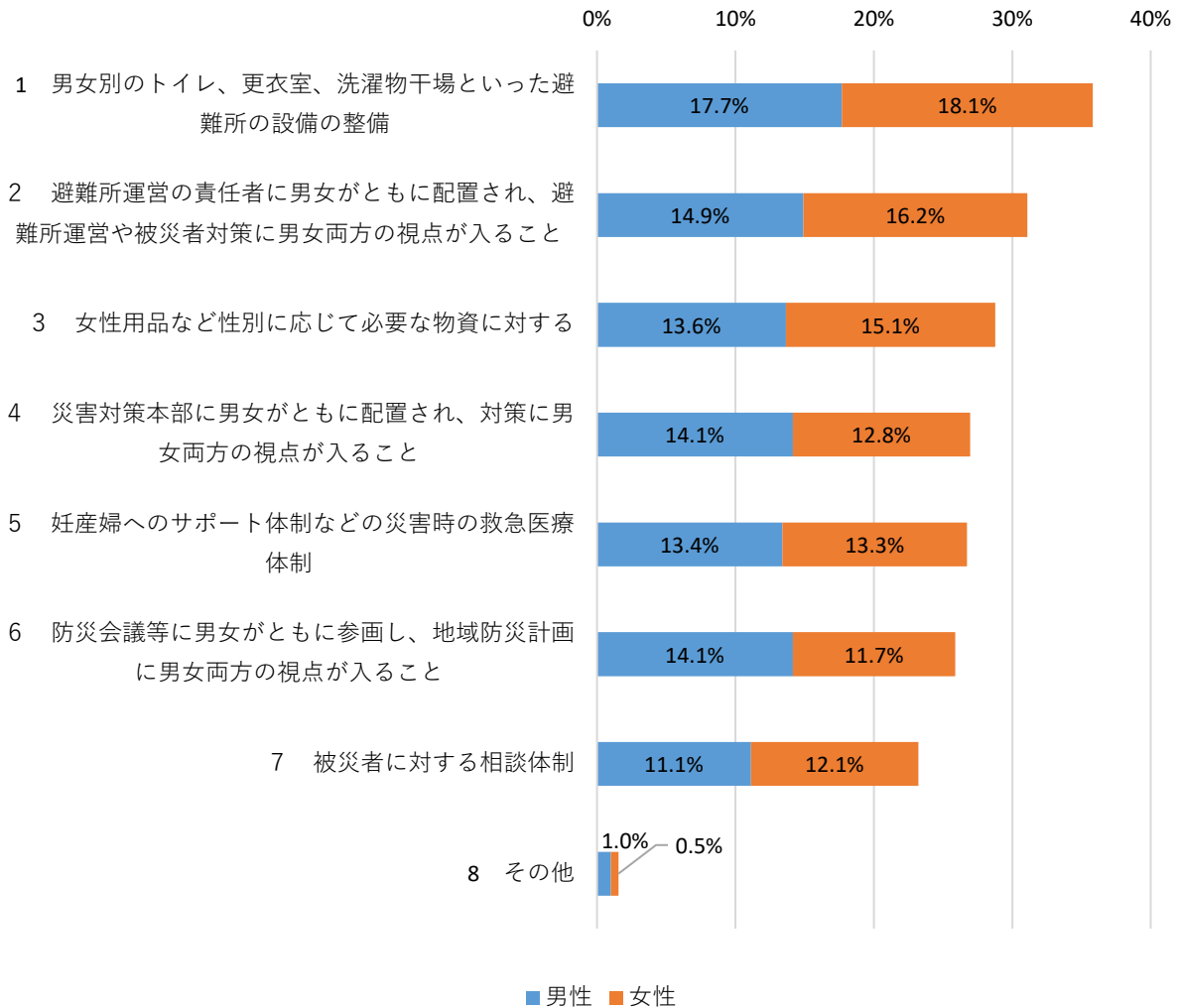
\* その他

- ・男女共に育休を取っても職場に迷惑が掛からないくらいの豊富な人材の確保
- ・幼少期から教育
- ・男性が家事などに参加することに対する男性自身の意識の向上が必要
- ・男性も家事をする時間を持つこと。例えば、水曜日は男性家事デーなど、社会的な変化を作り上げる。

最も多い回答は「3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」で男性 18.7%、女性 18.2%だった。次いで、「6 男性による育児・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が男性 13.8%、女性 15.8%となり、3 番目には「1 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」男性 12.8%、女性 14.2%と続いた。

## 6 防災・災害復興対策について

問15 防災・災害復興対策についてどのようなことが必要だと思いますか。次の中からいくつでもあげてください。



男性 n = 396、女性 n = 562

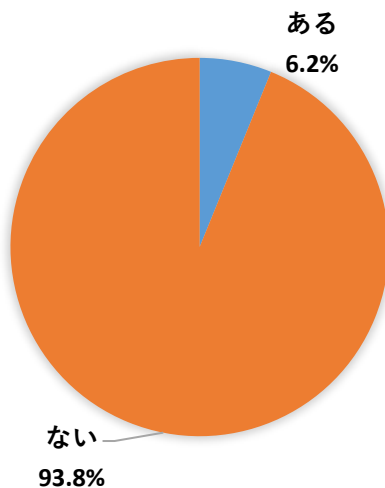
### \* その他

- ・女性のトイレは男性のトイレより数を増やす。
- ・若い世代の考えを積極的に取り入れてほしい。
- ・子どもや障がい者、ペットに対する視点も必要。

最も多い回答は、「1 男女別のトイレ、更衣室、洗濯物干場といった避難所の設備の整備」で男性 17.7%、女性 18.1%となった。

## 7 性に関することについて

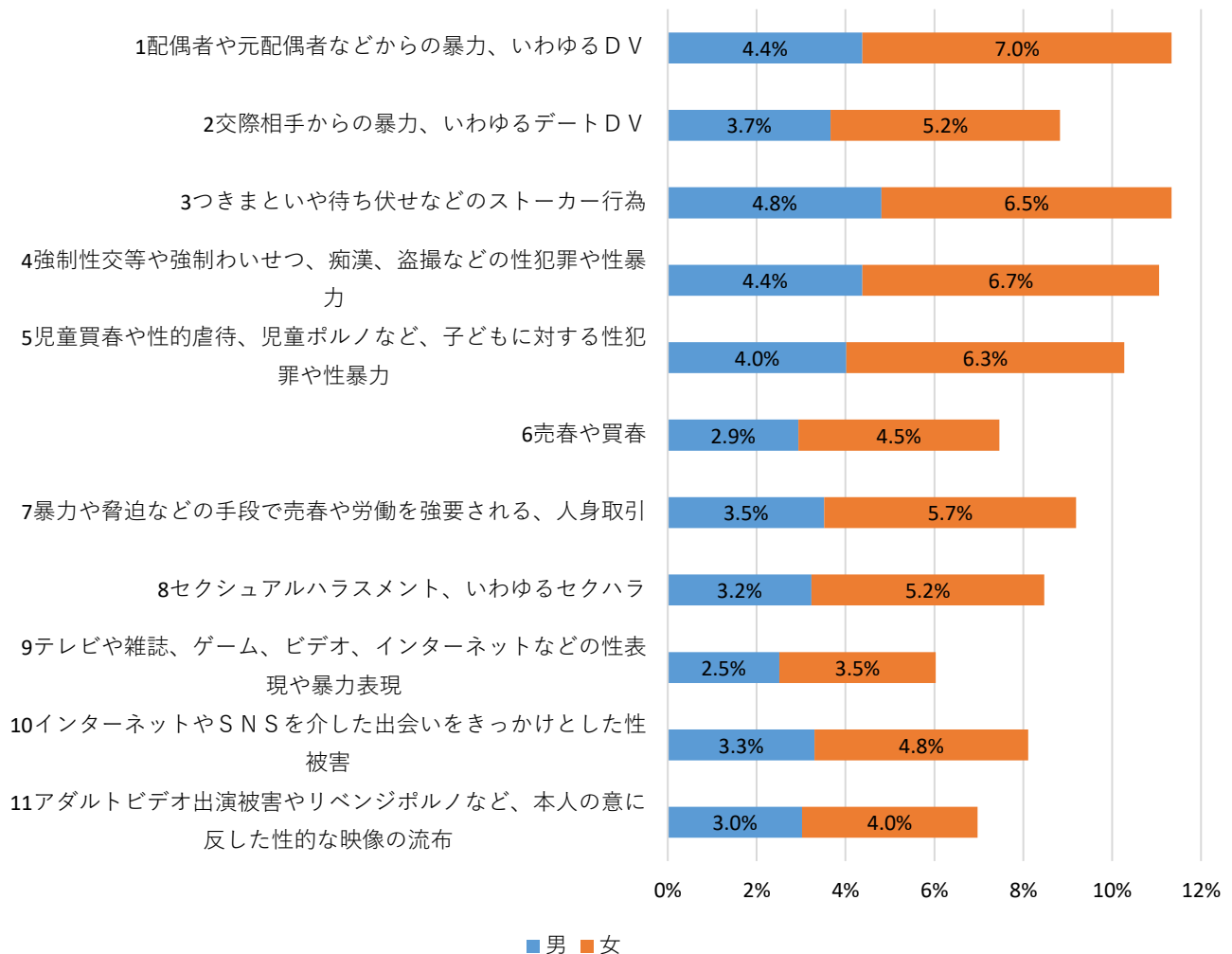
問16 「好きになる相手、性的対象が誰であるか」、「自分の性別をどう認識するか」など、性のあり方は多様であり、一人ひとり異なりますが、あなたは、今まで自分の性のあり方(性自認、性的志向)について悩んだことはありますか。次の中から1つだけお答えください。



n = 211

211人中13人、率にして6.2%の方が「ある」と回答した。

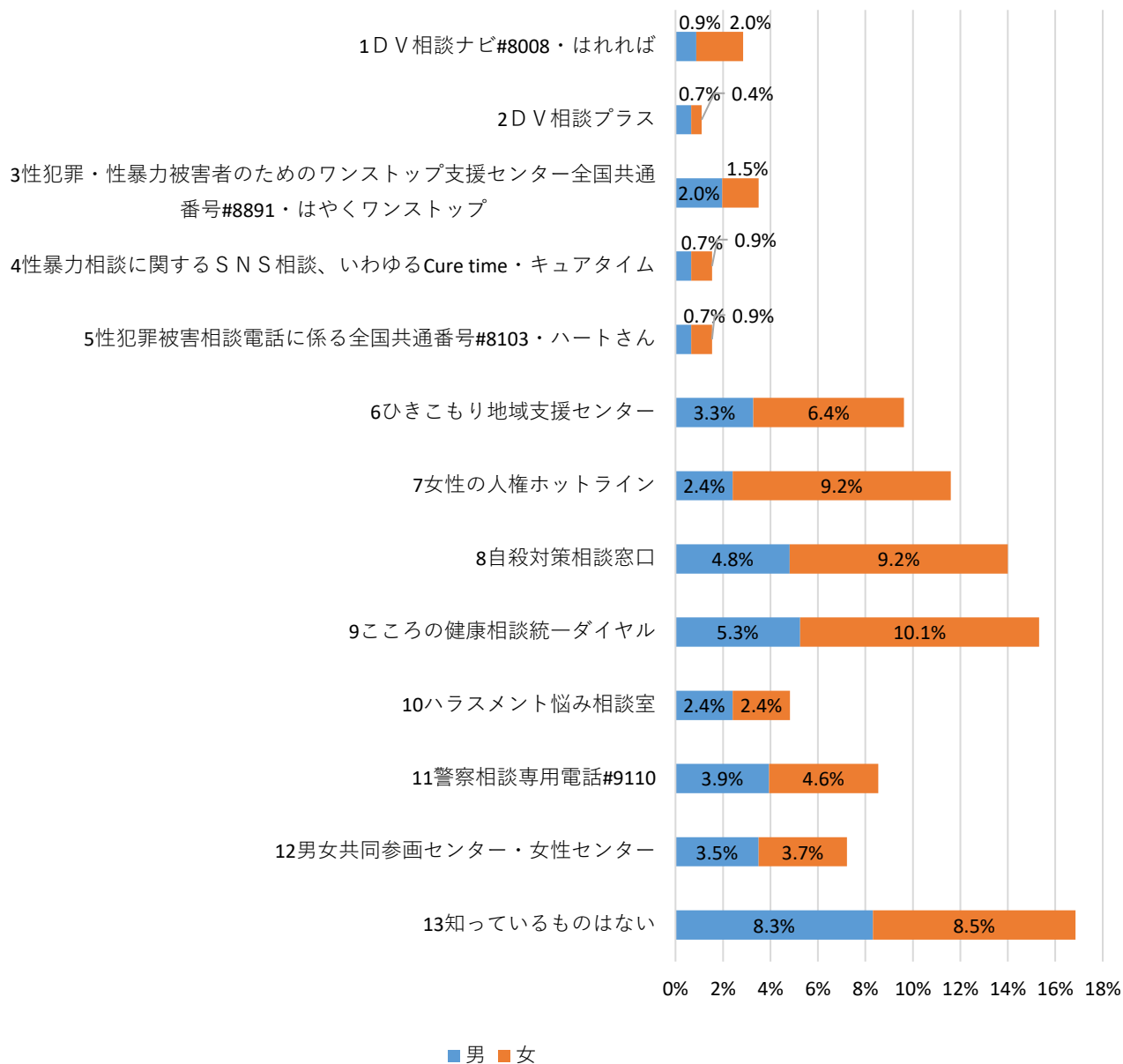
問17 女性に対する暴力の根絶を図るため、対策が必要だと考えるのはどれですか。次の中からあてはまるものをいくつでもあげてください。



男性 n = 554、女性 n = 826

最も多い回答は、「1 配偶者や元配偶者などからの暴力、いわゆるDV」男性 4.4%、女性 7.0%。次いで、「3 つきまといや待ち伏せなどのストーカー行為」男性 4.8%、女性 6.5%。3番目は「4 強制性交等や強制わいせつ、痴漢、盗撮などの性犯罪や性暴力」で男性 4.4%、女性 6.7%だった。

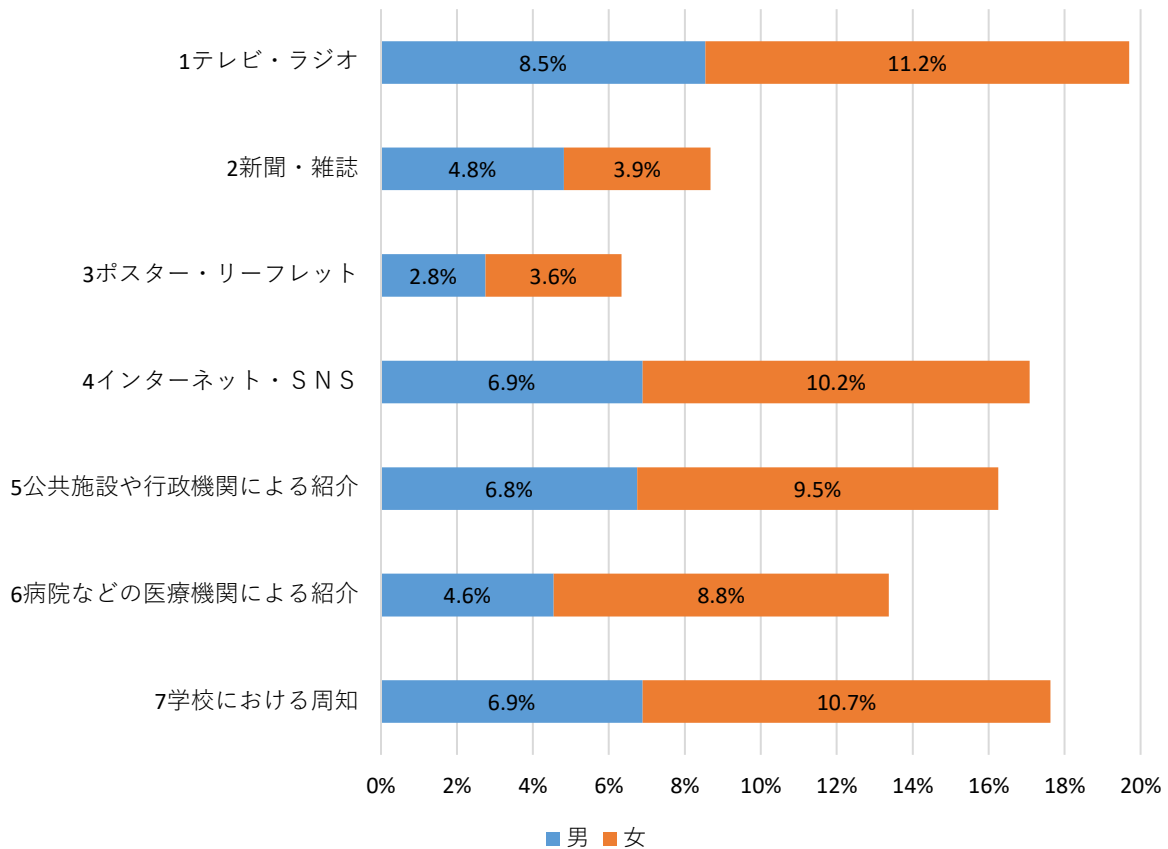
問18 女性に対する暴力やさまざまな悩みなどに関する相談窓口について、あなたが知っているものを次の中からいくつでもあげてください。



男性 n = 117、女性 n = 273

「13 知っているものはない」全体 16.8%、男性 8.3%、女性 8.5%で最多であった。認知されているものとしては、「9 こころの健康相談統一ダイヤル」が全体 15.1%、男性 5.3%、女性 10.1%だった。

問19 相談窓口の認知度を向上させるためには、どのような方法による周知が効果的だと思いますか。次の中からいくつでもあげてください。

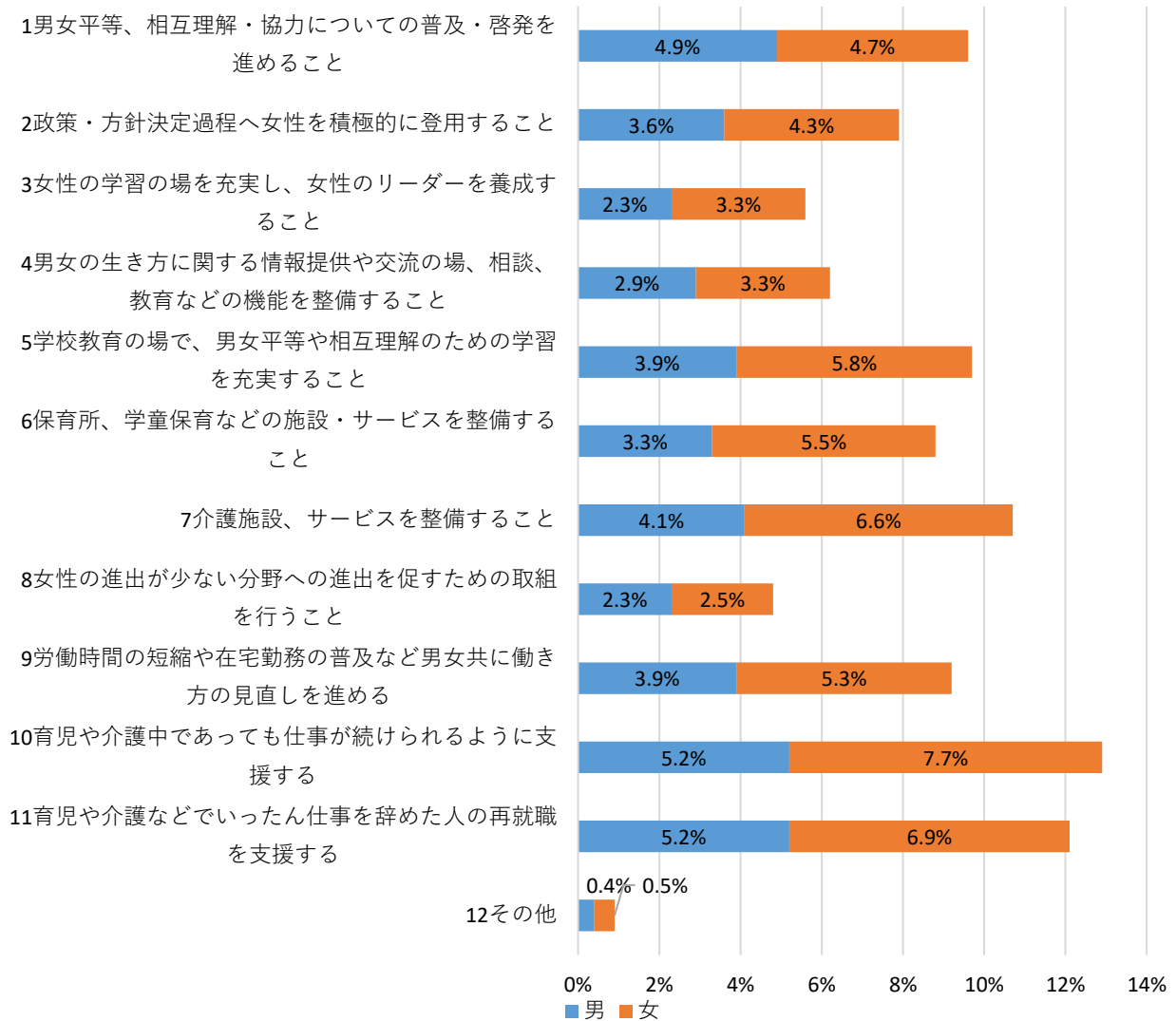


男性 n = 299、女性 n = 420

「テレビ・ラジオ」は男性 8.5%、女性 11.2%が効果的とし、「学校での周知」は男性 6.9%、女性 10.7%、「インターネット・SNS」は男性 6.9%、女性 10.2%である。

## 8 市への要望について

問20 「男女共同参画社会」を形成していくため、今後、市に対してどのような取組を望みますか。次の中からあてはまるものをいくつでもあげてください。



男性 n = 420、女性 n = 564

「10 育児や介護中であっても仕事が続けられるように支援する」全体 12.9%、男性 5.2%、女性 7.7%が最も多い市への要望であった。続いて、「11 育児や介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が全体 12.1%、男性 5.2%、女性 6.9%となり、3番目は「7 介護施設、サービスを整備すること」が全体 10.7%、男性 4.1%、女性 6.6%となった。

問21 男女共同参画社会の実現のために、ご意見・ご要望がありましたら、回答票にご自由にお書きください。

### 【仕事や収入について】

- ・女性もしっかり働けています。しかし、働かないといけない、休めないことがきついです。
- ・女性が働く為の理解や協力をしてほしい。
- ・女性もしっかり働けています。しかし、働かないといけない、休めないことがきついです。
- ・男性の方が収入が多いとは限らない。
- ・どうしても夫の給料の方が高いので、子供2人の手当ても扶養も夫の方に入り、私は何の優遇もされない。給料の高い方ではなく、低くても正社員なら扶養に入れさせて欲しい。
- ・男性と女性の職場の人数が同じだったら平等なのでしょうか？
- ・企業の中で働く場合、男女の差はやはり大きいと感じます。
- ・管理職や給与面など男性が女性に対する考え方も、会社側が考える事や対応についても昔とあまり変わらない。
- ・私の母が口ぐせのように「女性はパートナーが病気・病死などで収入がなくなったときのために、自立出来る仕事を身につけなさい。」と書いていたが、その言葉を身に染みて感じるがあります。

### 【子育てについて】

- ・男性の育児疲れによる産後うつのサポートがない。
- ・子育ては想像以上にお金がかかる。
- ・男女共同参画社会も大切と思うが、女性が社会に進出しすぎると、少子化が進むと思う。(私自身子供が小さいうちは家で子供を育てたかった。)昔の三世帯であれば、女性も安心して仕事に進出できると思う。
- ・小学校低学年くらいまでは、仕事よりも家庭優先で子供に愛情を注いでほしい。
- ・働きたい、働きたくない。その考えはひとそれぞれですが、働きたいのに子

どもがいて、介護が必要で、できないというのは非常にもったいないと感じます。20代、30代の人に助け船が欲しいです。子育ては一人では本当に難しく、誰かに助けてほしいです。病児保育とかも開くのは8時、それだと仕事に間に合いません。

### 【市への要望等について】

- ・男女が対等に意見が発言でき、市の発展にその声が活用され、人口増加や暮らしやすい市になることができればいいと思います。
- ・家庭教育の強化、男女平等の推進、女性が社会に出やすくする整備事項の強化
- ・山陽小野田市は田舎のため、まだまだ男尊女卑の傾向があるように思います。特に町内活動において顕著に見られます。地域の特色が色強く感じています。女性にだけ支援をするのも男性差別になりかねませんが、女性への古い概念、価値観が変わるようなくみが必要であると考えます。
- ・実現は大変ですが、取組を進めてほしいです。
- ・行政が強く男女共同参画を推進すべきだと思う。
- ・地域交流センターの「女性学級」について、時代に逆行しているものと思います。女性地位向上のために始まった戦前・後の学習機会の場と思いますが、役目を終えているのだと思います。なぜ「女性」限定なのか、その必要性をしっかりと告知するべきだと思います。性別に関係のない、学習の機会は年代も関係なくオープンにする事が時代に合っていると思います。
- ・性別に関係なくお互いを思いやり尊重できる社会づくりが必要だと思います。

### 【その他】

- ・多目的トイレがない場合、オムツ替えは女子トイレにしかない。
- ・男女の権利は平等だと思うが、生物学的に同じことが出来ないこともある。
- ・古い考えではあるが、男性と女性ではやはり違いがあると思う。それでも、男性でも女性でも挑戦する気持ちは大切で、やりたいと思う(仕事で上を

目指す等)気持ちを尊重される世の中になってほしい。

- ・私の周りの方々や自治会長さんはとても努力されておられますし、私も自分なりにお手伝いできる事は参加させていただいています。これからもお手伝いをさせて下さい。
- ・障がい者にも、暮らしやすい社会にして欲しい。
- ・私が生まれた時代から考えると男女共同参画社会はかなり進んできたと思う。女性初の総理が生まれ、これからの時代はどんどん変わっていくと思う。
- ・人口減少で回りとのコミュニケーションを取る機会が減ってきたと思います。
- ・男女平等社会の実現に向けての取組は、既に、かなりの年数が過ぎました。今日では、男尊女卑の問題が、表に出ることも少なくなったと感じております。それかといって、家庭内の状況も含め、真に、男女平等社会が構築されたとは思いません。こうした状況を踏まえ、地方自治体におかれて、多くに市民から情報を集め、今後の施策に反映させようとされているこの取り組みに、大いに期待するところです。
- ・1,000人規模のアンケートとのことで、回答者を含め、多くの人への啓発・啓蒙の効果も、大きいものがあると思います。
- ・小さい頃からの男女平等に対する意識改革が必要
- ・男女共同参画という言葉、取組がなくなり、男性・女性が同じレベルで社会生活がおくれるようになるといいなと思う。